

和仏法律学校講義録

横田, 五郎 / 杉本, 貞治郎 / 島田, 鐵吉 / 若槻, 禮次郎

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

8

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1903-11-01

(明治三十五年十一月四日第三編印刷認可 毎月十三日一回 一日所日八日)
十月十一日十五日十六日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行

明治三十六年十一月一日發行

三十六年度 特別法ノ八

和佛法律學子校講義錄

第百九十四號

和佛法律學校



特別法第八號目次

現行租稅法論(重一七六)

法學士 若槻禮次郎

戶籍法(重二五三)

法學士 島田鐵吉

非訟事件手續法(重一六九)

法學士 横田五郎

特許法(重六九)

法學士 杉本貞治郎

雜報

○府縣制第六條ニ所謂「請負」ノ意義○議員候補者氏名ノ誤記ト投票ノ效力○商品ノ普通名稱ノ意義○著作物ト偽作

090
1903
5-8

ルナリ 其地租ハ其地價ノ百分ノ幾ニシテ定ムルモノナリ
(ホ) 地租改正前ニ於テ開墾墾下年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ年期明ト爲
リタルトキ 地租改正前ニ於テハ現今第二類地ト稱スル如キ土地ニハ小物成
ヲ課シタルモ地租ヲ課セザリシヲ以テ地租改正前ノ墾下年期ナルモノハ一ノ
免租年期ナリ而シテ此ノ如キ土地ハ地租改正ノ時ニ於テ其地價ヲ定メザリシ
ヲ以テ年期明ノ時ニ於テ之ヲ設定セサルヘカラス
(ヘ) 地租改正當時ノ論争地ニシテ其所有者又ハ境界ノ判明シタルトキ 土地
ノ所有權又ハ其境界ニ付キ論争アリテ其何人ニ屬スルヤ又ハ其境界ノ何レニ
在ルヤノ判明セザリシ土地ハ地租改正ノ當時其地價ノ設定ヲ見合シタルモノ
少カラス元來地租ノ標準タル地價ヲ定ムルコト土地ノ所有權ヲ確認スルモ
トトハ全ク別事ニ屬スルカ故ニ論争アルノ故ヲ以テ地價ノ設定ヲ猶豫スヘキ
モノニアラス各自ノ占有ニ本キ一應所有者ト推定セラルル者ニ對シ地價ヲ定
メテ地租ヲ徵收スルハ當然ナリト雖モ當時ノ方針ハ此ニ在ラスシテ論争ノ甚
シキ其孰レカ正當ナルヤノ判別シ難キ場合ニ於テハ其土地ハ地價ヲ定メテ

リシカ故ニ若シ其所有者又ハ經界ニシテ判明ナルニ至ラサルトキハ新ニ地價ヲ定メテ其地租ヲ徵收セサルヘカラス。又舊ハ其地租ノ徵收ハ其地價ノ定メテ有租地ヲ誤テ官有地又ハ免租地ト爲シタルコトヲ發見シタルトキハ其地價ヲ定メテ官有地又ハ免租地ナリト信シ地租ヲ徵セサルコトトシ隨テ其地價ヲ定メテナリシニ其官有地又ハ免租地ニアラスシテ全ク有租地ナルコト判明シタルトキハ地價ヲ設定シテ地租ヲ賦課スルコトヲ要ス。

(チ) 脫落地ヲ發見シタルトキ 土地ハ地租改正ノ時並ニ明治十八九年ノ頃ニ於ケル土地整理ノ時ニ於テ精密ニ調査シタルヲ以テ有租地ニシテ土地臺帳ニ登記セラレサルモノハ殆ト之アルコトナカルヘシト雖モ多數ノ土地區劃中或ハ茲ニ地價設定ナルコトノ必要ヲ生スルモノナリ。然レテ其地價ノ設定ハ其地價ノ分合ヲ爲シタルトキ一筆ノ土地ヲ分割シテ數筆ト爲シ又ハ數筆ノ土地ヲ合併シテ一筆ト爲シタルトキハ從前ノ區域ハ各其地價ヲ有シタルモ新規ノ區域ハ未タ其地價ナキヲ以テ新規ノ區域ニ對シテハ地價ノ設定ヲ爲サ

サルヘカラス。或ハ土地ノ分合ヲ爲ストキハ從前ノ地價ヲ分配又ハ併合スルニ止マルカ故ニ地價ノ設定ニアラスト論スル者アルヘシ從來諸法令中ニハ此見解ニ依リテ制定セラレタルモノ少カラサルカ如シ登錄稅法又ハ明治三十二年法律第五十七號ノ如キ皆然リ法令ノ規定全體ヨリ見テ此ノ如ク解スルヲ相當トスル場合ニ於テハ其見解ニ依リテ之カ適用ヲ爲ササルヘカラス。ハ無論大リト雖モ予ハ地租條例ノ解釋トシテハ此ノ如キ見解ヲ取ラサルヘカラス。ソ必必要ナシト信スル者ナリ土地分合ノ場合ニ關シテハ地租條例ハ何等ノ規定スル所ナシ若シ地租條例ニシテ土地ノ分合ノ場合ニ於テ地價ノ設定アルコトヲ認メストセル分合ノ場合ニ於ケル地價ノ定メ方ニ付テハ必ス相當ノ規定アルコトヲ要スヘキニ其之ヲ規定セサルヲ以テ見ルモ地租條例ハ土地分合ノ場合ニ於テ新區域ノ地價ヲ定ムルハ地價ノ設定ニ外ナラサルコトヲ認ムルモノト謂ハサルヘカラス。明治三十二年大藏省令第十九號地租條例施行細則第四條ハ反面ニ於テ明ニ地租條例カ此意義ヲ有スルコトヲ示シタルモノナリ該省令ハ明治三十二年勅令第百十二號地租條例施行規則ノ制定ト共ニ廢止セラレタリ。

第一條 地租條例ノ意義ハ之ヲ爲メニ變シタルニアルス況ヤ地租條例施行規則第一條ハ土地ハ每筆其地價ヲ定ムルコトヲ規定シ地價ハ土地ノ各區域毎ニ之ヲ定ムルモノニシテ區域ヲ變シタルトキハ更ニ新規ノ區域ニ對シ地價ヲ設定セサルヘカヲサレコトヲ明ニシタルニ於テヤ唯分合ノ場合ニ於テ地價ノ設定アリトスルトキハ地租條例施行規則第十五條第二項ヲ適用セサルヘカヲサレニ至ルヘシ然ルニ土地合併ノ場合ノ如キハ類地ノ比準測量圖ノ調製等ノ如キ煩雜ノ手續ヲ爲サシムル必要ナキカ故ニ勅令ハ此ノ如キ場合ニハ地價ノ設定アリト爲ケサルノ意ヲ以テ制定セラレタルモノナリト謂フヲ以テ實際ノ便宜トシ其議論ヲ唱フル者アルヘシト雖モ必要ナキカ故ニ便宜勅令ノ命シタル書類ノ提出ヲ爲サシメサル如キハ行政處分上時ニ行フヘキ活用ニシテ之アルカ爲メニ法規ノ實質上ノ意義ヲ變スヘキモノニアラサルナリ

有租地ニシテ荒地免租年期ノ許可ヲ受タルトキハ其地價ハ消滅スルモノナラバ以テ年期明ニ至リテ原地價ニ復タル原地價ト同一ノ地價ヲ定ムルモノニシテ是レ亦一ノ地價設定ノ場合ナリト論スル者アリ地租條例カ特ニ原地價ニ復

スルコトヲ明言シ又其第二十二條ニ於テ地價ヲ修正スト謂ハスシテ地價ヲ定ムト謂フヲ以テ見レハ當初立案ノ趣旨ハ或ハ論者ノ說ノ如クナリシナルヘシ然レトモ凡ソ期間ヲ定メテ租稅ヲ免スルハ期間經過後ニ於テハ再ヒ從前ノ如ク之ヲ賦課スヘキコトヲ意味スルモノナリ即チ期間中租稅ヲ徵收セサルノ外ハ他ニ何等ノ意味ナキモノト見サルヘカラス果シテ然ラハ荒地ト爲リタルカ爲メニ一定ノ年間地租ヲ免スルコトト爲ルモ其地價ハ依然トシテ何等ノ影響ヲ受タルコトナシ唯免租年期中ハ地租ヲ徵收セサルカ爲メ其地價ヲ標準トシテ賦課ヲ爲スノ機會ナキノミ年期満了シ地租ノ賦課ヲ要スルニ至リタルトキハ當然其地價ヲ標準トシテ之ヲ課スヘキモノニシテ法律カ原地價ニ復スト云フハ則チ之ヲ謂フナリ近時制定セラレタル登錄稅法第五條第一項第十號ハ地租條例第二十二條ノ地價修正ト謂ヒ地租條例施行規則第八條カ其荒地免租年期明ニ至リ當初ノ地目ト異ナリタル土地ト爲シタルトキハ其地目ニ依リ地價ヲ修正シ地租ヲ徵收スト謂フハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタル土地ハ依然地價ヲ有スルモノニシテ之ヲ變更スルハ常ニ地價修正ト爲ルコトヲ明ニシタルモ

ノナリ故ニ荒地復舊ノ場合ヲ以テ地價設定ノ場合ナリト謂フハ當ラサルモノトス
 二 地價設定ノ方法
 地租條例第九條ニ依レハ地價ハ其地ノ品位等級ヲ鑑定シ其所得ヲ審查シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シテ之ヲ定ムヘキモノナリ故ニ地價ヲ設定スルニハ左ノ順序ニ從フヘキモノトス
 (イ) 土地ノ品位等級ヲ鑑定スルコトヲ要ス 租稅ノ負擔ハ公平ナルヲ要スルカ故ニ地價ハ常ニ近傍類地ト均衡ヲ保ツコトヲ必要トス故ニ地價ヲ定メントモハ先ツ其地ヲ近傍類地ニ比較セテ其品位等級ヲ鑑定シ以テ設定地價ノ近傍類地ノ地價ニ比シ不均衡ナキコトヲ期セサルヘカラス
 (ロ) 土地ノ所得ヲ審查スルコトヲ要ス 土地ノ所得ハ其價額ノ要素ヲ爲スモノナルカ故ニ所得ニ依リテ地價ヲ查案スルハ最も公平ヲ得ルニ近キモノトス故ニ地價ヲ設定セントモハ能ク其地ノ所得ヲ審查セサルヘカラス地租改正當時ニ於ケル地價算出方法ハ土地ノ純益ニ依リ地價ヲ定ムルノ方法トシテ尙ホ

未ダ盡ササル所アルヲ免レサシト雖モ當時ノ趣旨ハ地價ハ土地ノ純益ヨリ還元シテ之ヲ定ムルニ在リタルコトハ何等ノ疑ヲ容レズ地租條例ノ精神モ亦大體ニ於テハ茲ニ在リテ存スルコト第九條カ特ニ土地ノ所得ヲ審查スヘキコトノ規定スルヲ以テ明ナリト謂ハサルヘカラス
 (ハ) 土地ノ情況ヲ斟酌スルコトヲ要ス 土地ノ價額ハ大體ニ於テハ其所得ニ比例スルモノナリト雖モ所得ハ其唯一ノ要素ニアラス交通ノ便否權限ノ多少其他種種ノ原因相集リテ其價額ヲ定ムルモノナルヲ以テ單ニ所得ノミニ着眼シテ地價ヲ設定スルトキハ其地價ハ多クノ場合ニ於テ實地ニ適當セサルモノナルコトヲ免レス故ニ其土地ノ情況ニ應シ多少ノ斟酌ヲ加ヘサルヘカラス
 地租條例第九條ノ規定ヲ分析スルトキハ右ニ舉グタル三段ノ順序ト爲ルモノナリ然レトモ土地ノ品位等級ハ其所得及ヒ諸般ノ情況ニ依リテ定マルモノナルヲ以テ所得ヲ審查シ且ツ諸般ノ情況ヲ調査スルハ則チ其地ノ品位等級ヲ鑑定スルモノニシテ所得審查及ヒ情況調査ノ外ニ於テ尙ホ品位等級ノ鑑定ナル特別ノ手段アルニアラス故ニ該條例ノ意義ハ地價ハ土地ノ所得ニ依リ實地ノ情

現行地租額ノ之ヲ定ムヘキモノト爲スニ在リト謂フコトヲ得ヘシ。實地ノ地租條例ノ規定スル地價設定方法ハ實ニ此ノ如シ然レトモ此方法ヲ嚴格ニ實行スルハ實ニ困難ニシテ殆ト言フヘクシテ行フスカラサルコトニ屬ス今其困難ナル事情ノ主要ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ。

(a) 所得ノ計量ニハ甚シキ手數ヲ要ス。地價ヲ設定スヘキ土地各筆ニ就キ悉ク其所得ヲ計量セントセハ其手數タル勝ケテ言フヘカラス假ニ坪割等ノ方法ヲ用フルトスルモ多數ノ筆數ニ就キ一坪割ヲ爲ストキハ官民ノ勞費ハ實ニ測ルヘカラス加フルニ坪割ノ場所又ハ其計數ニ付キ検査官吏ト土地所有者トノ間ニ意見ヲ異ニスルコトナキヲ保セス爲メニ往往官民間紛議ノ因ト爲ルコトナシトセズ。

(b) 所得ノ計量ニハ多クノ時日ヲ要ス。土地ハ年ニ因リテ豐凶アルヲ免レサルヲ以テ實地ノ所得ヲ計量セント欲セハ少クモ二三年間ノ所得ヲ平均セテ之ヲ定メサルヘカラス故ニ實際ノ所得ヲ計量シテ地價ヲ定ムルニハ二三年之時日ヲ費ササルヘカラス此ノ如キ行政事務ハ得テ之ヲ敏捷ニ措辦スヘカラズ。

ルナリ。

(c) 現時ノ所得ヲ以テ直チニ地價ヲ定ムルトキハ甚シキ不權衡ヲ生ス。現今ノ有租地ハ多クハ明治六七年ノ頃ノ所得ニ依リ其當時ノ物價ニ本キテ其地價ヲ定メタルモノナリ故ニ或土地ニ付キ今日ノ所得ニ依リ今日ノ物價ニ本キテ地價ヲ定ムルトキハ同一地目ニシテ而モ其地力ノ相若ケル土地ニシテ其地價ハ一ト二又ハ三トノ比例ノ如キ甚シキ不權衡ヲ呈スルニ至ルヘシ法律ノ規定ニ本クト謂フト雖モ此ノ如キハ之ヲ穩當ナルモノト謂フコト能ハス。

實地ノ所得ヲ審査シ之ニ依リテ地價ヲ定ムルノ困難ナルコト此ノ如シ故ニ實際ニ於テハ多クハ類地地價ニ比準シ之ト權衡ヲ計リテ其地價ヲ定ムルノ方法ヲ取レリ予ハ此方法ヲ以テ地租條例第九條ノ規定ニ反スルモノニアラスト爲ス者ナリ何トナレハ現今一般有租地ノ地價ハ地租改正ノ時又ハ其後ニ於テ土地ノ地價ハ其所得ニ依リ實地ノ情況ニ應シテ之ヲ定ムルノ精神ニ依リテ定メラレタルモノナルカ故ニ之ニ比準シテ地價ヲ定ムルハ正ニ土地ノ所得ニ依リ實地ノ情況ヲ斟酌シテ地價ヲ定ムルモノナルヲ以テナリ地租條例第九條カ地價

反金ヲ以テ直チニ其地價ヲ定ムルハ地方比準ノ趣旨ニ適スルモノニアラザルコト是ナリ此ノ如キ土地ハ二者同一ノ面積ヲ有スルモ其收益ハ必ス相同シカラス故ニ稍々廣キ畦畔崖脚等アル土地ハ相當ノ斟酌ヲ加ヘテ其等級ヲ下スルカ又ハ主要ノ部分ト畦畔崖脚等トニハ適用スヘキ反金ヲ異ニスル等相當ノ注意ヲ加ヘ以テ地方ノ真正ノ比準ヲ爲シ常ニ地價ハ本體ニ於テ所得ニ比例セザルヘカラサルノ精神ヲ失ハサルコトヲ期セサルヘカラス

地方ノ比準ヲ爲スニ當リテハ地價ヲ定メントスル土地ノ現在ノ所得ヲ根據トシテ之ヲ類地ニ比較スヘキモノナリト雖モ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ額下年期ノ許可ヲ受クルトキ其地價ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ法律ノ特別規定アルヲ以テ此原則ニ依ルコト能ハス地租條例第十三條第四項ニ依レハ此場合ニ於テハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ現在ノ地方ニ依ラス素地即チ人爲ニ本ク生産力ノ加ラサル時ノ地方ヲ推想シ之ニ依リテ比準ヲ求メ素地ナリシナラハ有スヘカリシ等級ニ本キ之カ地價ヲ定ムヘキモノトス

ハ 地價ノ計算 丈量ニ依リテ土地ノ面積ヲ確メ比準ニ依リテ之ニ適用スヘキ反金ヲ得ルトキハ剩ス所ハ唯机上ノ計算アルノミ而シテ計算上一錢未滿ノ端數ヲ生シタル場合ニ於テハ四捨五入ノ方法ニ依リ地價ハ總テ錢位ニ止ムヘキモノトス(明治三十二年法律第五十七號)

地價ノ設定ハ所得審査狀況斟酌ニ依リテ之ヲ爲スヘク類地比準ハ實ニ此趣旨ニ成リタル便宜ノ方法ナルコト以上略述スル所ノ如シ而シテ予ハ土地ノ分合ノ場合ニ於テハ地價ノ設定ヲ要スルモノナリト信スルカ故ニ分合ニ因リテ新ニ生シタル土地區域ニ對スル地價ハ以上述ヘタル所ニ從ヒテ之ヲ定ムヘキハ當然アリ然レトモ土地ノ分割又ハ合併トハ其區域ヲ變更スルニ止マリ其形狀又ハ供用ヲ變更スルモノニアラサルカ故ニ土地ノ分合ハ之ヨリ生スル所得其他地價ノ基礎タルヘキ諸種ノ原因ニ影響ヲ及ボササルヲ常トス果シテ然ラハ土地分合ノ場合ニ於テ所得審査又ハ類地比較ヲ以テ其各筆ノ地價ヲ定ムルトキハ自ラ從前ノ地價ヲ分配シ又ハ之ヲ併合シテ其地價ヲ定メタルト同一ノ結果ニ歸スルニ至ラサルヲ得ス故ニ寧ロ初ヨリ數筆ノ土地ヲ合併シテ一筆ト爲

シタルトキハ其地價合計額ヲ以テ其土地ノ地價ト爲シ一筆ノ土地ヲ分割シテ
數筆ト爲シタルトキハ各筆ノ地位等級ニ應シ分割前ノ地價ヲ分配シテ其地價
ト爲スノ簡ニシテ便ナルニ若カサルナリ予ハ實際ニ於テハ此簡便法ヲ取ラシ
ムコトヲ希望シテ已マス

三 地價設定ニ伴フ納稅義務ノ區分
地價ヲ設定スルハ土地分合ノ場合ヲ除クノ外ハ從來無租地タリシモノカ新
有租地ト爲リ地租ヲ賦課スルヲ要スルニ至リタルニ依ルモノナリ故ニ地價ヲ
設定シタルトキハ之ニ依リテ地租ヲ徵收セサルヘカラス若シ年ノ初日即チ一月
一日ニ於テ地價ヲ設定シタルトセハ其年ノ地租ハ全額納付ノ義務アルヘキハ
論ナシト雖モ年ノ央ニ於テ地價ヲ設定シタルトキハ其年ノ地租ニ付テハ所有
者又ハ買取主ハ金額納付ノ義務ヲ有スルモノナルヲ將タ一部ヲ納付スレハ足
レリトスヘキヤ此問題ノ解決ハ則チ予カ所謂納稅義務ノ區分ナルモテフヲ爲ス
モノナリ

地租條例第一條ニ依レハ地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ年ノ定率トス

シテ年ヲ以テ租率ヲ定メ其第十四條第十五條及第二十條其年ヨリ地租
ヲ徵收スル定メ(壹年分ヨリ地租ヲ徵收スル)爲シ又ハ賦課年間ノ地租ヲ追徵
スト言フ而シテ年額ヲ徵セサルトキハ第十三條第二項ノ如ク特ニ月割ヲ以テ
之ヲ徵收スヘキコトヲ明言ス故ニ地租條例ノ趣旨ハ地租ヲ以テ年稅ト爲シ土
地ニ對シ年々之ヲ賦課スルニ在ルヲ明カナリ既ニ地租ヲ以テ年稅ト爲ス以上
ハ納稅義務ノ生シタル時ハ何レノ時ニ在ルヲ問ハス苟モ義務アルニ至リタル
トキハ所有者又ハ買取主ハ其年ノ地租全額ヲ納ムル義務アルモノト謂ハサル
ヘカラス隨テ年ノ央ニ於テ地價ヲ設定シタル場合ト雖モ法律ニ特ニ例外ナキ
限リハ其地價ニ依リ算出シタル地租ノ年額ヲ納メサルヘカラス此場合ニ於テ
既ニ納期ノ經過シタル租額ハ一時ニ之ヲ納付スルヲ要スルモノトス地租ヲ以
テ年稅ト爲スコトヲ以テ誤リナシトセハ予ハ此論結ヲ以テ當テ得タルモノナ
リト信ス然レトモ實際ノ取扱ニ於テハ此ノ如クナラス既ニ納期ノ經過シタル
モノハ之ヲ納ムルニ及ハスト爲スモノノ如シ是レ後ニ説明スヘキカ如ク地租
ハ納期ニ於ケル土地臺帳記名者ヨリ徵收スヘキモノナルヲ以テ有租地ノ官有

地ト爲リタル場合ニ於テハ其後ニ屬スル納期ニ於テ納ムヘキ地租ハ自ラ之ヲ納メスシテ可ナルニ至ルヲ以テ官有地ノ有租地ト爲リタル場合ニ於テモ既ニ過キタル納期ニ於テ納ムヘカシ地租ハ之ヲ納ムルニ及ハスヲ爲シテ其權衡ヲ計ルヲ以テ穩當ナリト爲シタルナルヘシ此種衡ヲ以テ當テ計ルガハキ無租地カ有租地ト爲リタルトキハ地租ヲ徵收セサルヘカラス地租ヲ徵收スルニハ之カ標準タルヘキ地價ナカルヘカラス故ニ無租地ニシテ有租地ト爲リタルトキハ直チニ地價ヲ設定シ法律ニ特別ノ規定ナキ限リハ其年ヨリ之ニ依リテ地租ヲ徵收スヘキモノナリ然ルニ若シ何等カノ事故ニ因リ無租地カ有租地ト爲リタル時ニ地價ヲ設定セシテ後年ニ至リ之ヲ設定シタルトキハ其地ノ地租ハ時效ニ罹ラサル限リ最初有租地ト爲リタル年ヨリ之ヲ徵收スヘキヤ將タ事實地價ヲ設定シタル年ヨリ之ヲ徵收スヘキヤ此問題ハ地租ニ關スル問題中ニ於テ議論ノ多キモノノ一ヨリ今兩說ノ主要ナル議論ヲ擧ケ然ル後予ノ之ニ對スル所見ヲ記述セントス

第一說 地租ハ最初有租地ト爲リタル年ヨリ之ヲ課スルコトヲ要ス其理由左

如シ

- (イ) 明治七年大政官布告第百二十號地所名稱區別ニ依レハ民有地第一種ハ「地租ヲ課シ地方稅ヲ賦スル」法トスト爲ス故ニ土地ニ係ル納稅義務ハ其民有地第一種即チ地租條例ノ所謂有租地ト爲リタル時ニ於テ發生スルモノナリ
- (ロ) 地租條例第三條ハ有租地ヲ區別シテ二類ト爲スト爲シ其類別中ニ田畑宅地山林等ノ各地目ヲ掲記ス故ニ地租條例ハ田畑宅地山林等ハ地價ノ有無ニ拘ラズ地租ヲ負擔スヘキ土地ナルコトヲ認ムルモノナリ
- (ハ) 地租條例第二十五條ハ「土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脫スルモノハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス」ルコトヲ定ム若シ地價設定前ニ地租納付ノ義務ナシトセハ欺隱シタル土地ノ如キ地價ナキモノハ遁脫スヘキ地租アルヘキ理ナシ然ルニ法律カ地價ナキ土地ニ付キ尙ホ地租ヲ遁脫スト言フヲ以テ見レハ地租納付ノ義務ハ地價ノ設定ニ因リテ始メテ生スルモノニアラサルコトヲ知ルヘシ

(一) 若シ地價設定ノ年ヨリ始メテ地租ヲ徴收スヘキモノトセハ地價ノ設定ナルモノハ偶然ノ事實又ハ過失怠慢等ニ因リ延引スルコトアルモノナルカ故ニ地租納付ノ義務ハ偶然ノ事實又ハ過失怠慢等ノ有無ニ因リ其發生ノ時期ヲ異ニスルモノト謂ハサルヘカラス租税ノ負擔ハ衡平ヲ主眼トスヘキモノナルニ地租條例カ過失怠慢等ノ存シタル場合ニ於テハ却テ地租ノ賦課ヲ爲ササルコトヲ規定スルモノナルコトハ想像スヘカラサルコトナルヲ以テ地價設定ノ年ヲ以テ納税義務發生ノ年ト爲スコト能ハス

乙説 地租ハ地價設定ノ年ヨリ之ヲ課スルコトヲ要ス其理由左ノ如シ
(イ) 地價ヲ設定シ之ニ依リテ其地ノ有租地ト爲リタル年ヨリ地租ヲ徴收セントスルハ行政處分ノ效力ヲ既往ニ遡ラシムルモノナリ凡ソ處分ノ效力ヲ遡及セシムルコトハ例外ニ屬スルカ故ニ法律ノ明文アルコトヲ要ス然ルニ地租條例ハ第二十五條第二十六條及ヒ第二十七條ニ於テ追徴ナルコトヲ定ムルノ外遡及ノコトヲ規定スル所ナシ故ニ地租ハ原則トシテハ地價設定ノ年ヨリ之ヲ徴收セサルヘカラス

(ロ) 地租條例第一條ハ地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トスルコトヲ定メ其但書ヲ以テ地價ハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フト爲スヲ以テ土地臺帳ニ地價ヲ掲ケルニアラサレハ地租ヲ徴收スルコトヲ得ス故ニ地價ノ設定ハ地租納付義務ヲ生スル根源ナリ
(ハ) 地租ニシテ當然其地ノ有租地ト爲リタル年ヨリ徴收スヘキモノナリトセハ地租ニ關シテ追徴ナルコトヲ規定セサルモ當然追徴ヲ爲スヘキモノナリ然ルニ第二十五條以下第三條カ特ニ地租又ハ地租増額ヲ追徴スヘキコトヲ定メタルハ之ナケレハ追徴ヲ爲スコト能ハサルニ因ルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ地租條例ハ原則トシテハ地租ハ地價設定ノ年ヨリ之ヲ徴收スヘキコトヲ認ムルモノナリ
予ハ右兩說中甲説ニ左祖スルモノナリ乙説論者ハ效力遡及ハ法律ノ明文ヲ要スト爲ス然リ法律ノ規定アルニナラサレハ遡及ノ力ヲ生セス然レトモ法律ハ必スシモ效力ノ遡及スヘキコトヲ明言スルヲ要セス效力ノ既往ニ及フヘキ意義ヲ有スル規定アレハ足レリ地所名稱區別カ民有地第一種ニハ地租ヲ課スル

定メ地租 田畑宅地山林等ヲ稱シテ有租地ト爲スハ則チ民有地ヲ一種即チ田畑宅地山林等ノ如キ地目ト爲リタル土地ニハ其時ヨリ地租ヲ課スルノ意義ヲ現ハシタルモノニシテ即チ之ヲ效力遡及ノ意義ヲ有スル規定ナリト謂フ可ナリ又乙説論者ハ地租條例第一條ニ依レハ土地臺帳ニ地價ヲ掲タルニアラサレハ地租ヲ徵收スル能ハサルカ故ニ地價ノ設定ハ地租納付ノ義務ヲ生スル根源ナリト謂フト雖モ此ノ如キハ地租條例ノ正解ナリト謂フコト能ハス地租條例第一條ハ地租ハ地價ノ百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率ト爲スコトヲ定メタルヲ以テ法律ニ何等ノ規定ナキトキハ地租ハ土地ノ賣買價格百分ノ二箇半ヲ以テ其一年ノ定率ト爲スコト爲ルヘシ地租條例第一條但書ハ此ノ如キ解釋ヲ生セサラセムルカ爲メ特ニ地價トハ土地臺帳ニ掲タル價額ニシテ實際ノ賣買價格ニアラサルコトヲ明ニシタルノミ地價ハ地租賦課ノ標準ナリ法律カ課税ノ標準ハ公簿ニ登記シタル法定ノ價額ナリト規定セタルカ爲メニ土地ノ負擔ハ課税ノ標準ヲ公簿ニ登記シタル時ニ於テ始マルモノナリトノ論結ヲ生スルモノニアラス地價ヲ定ムルニアラサレハ地租ノ額ヲ確定スルコト能

ハサルハ無論ナリ然レトモ此ノ如キハ税額ノ確定セサルモノト謂フノミ納税義務ノ確定セサルモノト謂フニアラス土地ハ有租地ト爲レハ茲ニ地租ヲ負擔セサルヘカラサルヲ以テ地租納付ノ義務ハ此時ニ於テ既ニ確定スルナリ唯地價ノ設定アルマテハ地租額確定セサルヲ以テ事實上地租ノ徵收ハ不能ニ屬スト謂フニ過キス地價ニシテ一タヒ設定セラルトキハ茲ニ地租ノ金額確定ス地租ノ金額確定シタルトキハ茲ニ地租ノ徵收ヲ爲スコトヲ得地租ノ徵收ヲ爲ストセハ其義務ノ發生シタル時ヨリ之ヲ爲ササルヘカラス而シテ義務ハ標準ノ定マリタル時ニ於テ發生スルニアラスシテ土地カ有租地ト爲リタル時ニ於テ發生スルモノナルカ故ニ地租ノ徵收ハ此時ヲ以テ起點ト爲ササルヘカラス地租條例第二十五條以下ニ於テ地租ヲ追徵スルコトヲ特ニ規定シタルカ爲メニ地價設定前ニハ地租ヲ納ムル義務ナシト謂フニ至リテハ其論據ノ薄弱ナルニ驚カサルヲ得ス第二十五條以下第三條ニ於テ特ニ地租ノ追徵ナルコトヲ明言シタルハ現地價ニ依リテ定メタル地價ニ依リテ地租又ハ地租増額ノ追徵ヲ爲スヘキコトヲ明ニ且ツ其追徵ハ三年以前ニ遡ラサルコトヲ定ムルノ必要ア

ルニ因ルモノナリ之ヲ以テ地價設定前ニ於ケル地租ヲ徵收スルカ爲メニ追徵ナレ明言ヲ爲シタルモノト謂フコトヲ得ス特ニ論者ノ議論ハ此點ニ於テ自家權着ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ地價設定前ニ於テハ地租納付ノ義務ナキモノナリトセハ第二十五條以下三條ニ規定スル如キ土地ニ付テハ追徵スヘキ地租ナルモノアルコトナシ追徵スヘキ地租ナキコトヲ證明スルニ之ヲ追徵ストノ法文ヲ引用スルハ論理ノ一貫セサル所アルヲ免レサルヲ以テナリ故ニ予ハ乙說ヲ取ラス甲說ヲ以テ地租條例其他地租ニ關スル現行法規ノ正當ナル解釋ナリト信ス然レトモ乙說ニ從フトキハ法律ニ明文アル場合ノ外ハ地租ノ追徵ナルモノヲ認メサルカ故ニ行政處分ノ遲延シタルカ爲メ一時ニ多額ノ地租ヲ課セラルルカ如キコトヲ生セサルノ便アリ現今實際ノ取扱ハ專ラ乙說ニ依ルモノノ如シハ地租ノ課税ニハ地租ノ納付ノ義務ハ地租ノ納期ノ經過タル租額ヲ不問ニ付スルト否トハ別問題トシ原則ニ於テハ其年用リ金額ヲ徵收スヘキモノナルコトハ以上述フル所ノ如シ此原則ハ次ニ掲タル場合ニ

於テ特例ヲ有ス
(イ) 官有地ノ拂下ヲ受ケテ有租地ト爲シタルトキ明治十年大政官布告第十八號 此場合ニ於テハ拂下ノ年ハ其翌月ヨリ月割ヲ以テ地租ヲ徵收スヘキモノニシテ金額ヲ徵收スヘキモノニアラス但シ拂下トハ代價ヲ支拂ヒテ所有權ヲ取得スルコトヲ謂フカ故ニ無代下渡ヲ得タル土地ハ月割徵收ヲ爲スヘキモノニアラス原則ニ從ヒ全年分ノ地租ヲ徵收セサルヘカラス
(ロ) 鄉村社地墳墓地用悪水路溜池隄塘井溝鐵道用地及ヒ公衆ノ用ニ供スル道路ニシテ公共團體ニアラサル者ノ所有ニ係ルモノヲ有租地ト爲シタルトキ地租條例第一三二條 茲ニ掲タル土地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受ケサルヘカラス地租條例第一一條而シテ其年ハ許可ヲ得タル月ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ地租ヲ徵收スヘキモノトス

(ハ) 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止シ又ハ制限シタル土地ニシテ其禁止又ハ制限ヲ解キタルトキ明治三十二年勅令第三百七十四號第三條 此場合ニ於テハ禁止又ハ制限ヲ解キタル月ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ其年ノ地租ヲ徵收スヘキ

モヲトシ明治三十二年勅令第三百七十四號第三條ハ月割ヲ以テ地租ヲ徵收ス
キコトヲ明言セス但難モ禁止又ハ制限ヲ解キタル月割地租ヲ免除スル當
ヘハ自ラ其翌月ヨリ月割ヲ以テ之ヲ徵收スルモノ意義ヲ有スルモノト謂ハサ
ルヘカラス

(三) 公共團體ニ於テ公用ニ供スル土地ニシテ公用ヲ廢止シタルトキ(明治三十
三年法律第十九號) 法律ハ公用廢止ノ年マテ地租ヲ免スヘキコトヲ定メタル
ヲ以テ其年ハ地租ヲ課セス翌年ヨリ之ヲ徵收スヘキモノナリ公立學校水道用
地及ヒ傳染病豫防法ニ依ル傳染病院隔離病舎隔離消毒所ノ敷地ハ公共團體
ニ於テ公用ニ供スル土地ナルヲ以テ總テ明治三十三年法律第十九號ノ適用ヲ
受タヘキモノトス隨テ地租條例第十三條第二項ハ公立學校ニ關シテハ其適用
ヲ失ヒ明治三十三年法律第四號ハ自ラ廢止セラレタル地租ノ額ハ其適用
スル公共團體ニ歸スルモノトシ其翌月ヨリ其額モ以テ原額ノ額額スルヘカス
(四) 新開免租年期ヲ有スル土地ニシテ年期明ト爲リタルトキ地租條例第一五條
新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス免租年期ハ全年ヲ以テ計算ス

ルカ故ニ年期明ノ翌年ヨリ課稅スルハ是レ正シク原額ニ適スルモノト爲シテ或
ハ之ヲ特例ト見サルヲ可トスルナルベシ

土地分合ノ場合ニ於テハ地價ヲ定ムト謂フト雖モ他ノ場合ノ如ク全ク地價ナ
キ土地ニ地價ヲ附スルト異ナリ地價ヲ有シ且ク地租ヲ負ヒタル土地ノ區域又
變シタル爲メ新區域ニ對シテ地價ヲ定ムルノミ而シテ其地價ノ設定タルニ從
前ノ地價ヲ分配又ハ併合スルヲ以テ簡便ト爲スヘク實際ニ於テモ殆ト皆此ノ
如キ方法ヲ取ルモノノ如クナルヲ以テ納稅義務ノ區分ノ如キ問題ハ起ラサル
ヘシ然レトモ分合ニ際シテハ四捨五入ノ計算ヲ爲メ前後租額ニ小差違ヲ生ス
ルコトアルヲ以テ其年ハ就レノ租額ヲ以テ地租ヲ徵收スヘキヤハ一疑問タラ
サルニアラス予ノ考フル所ニ依レハ此ノ如キ場合ニ於テハ租額ニ彼此ノ區別
ヲ爲ス納期ニ於ケル現在ノ計算ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノナリト信ス

第二 地價ノ修正

地租ノ沿革ヲ叙スルニ當リテ畧述シタル如ク地租改正當時ニ於ケル立法者ノ意
ハ地價ヲシテ常ニ土地ノ賣買實價ニ伴ハシメントスルニ在リシモノノ如シト

雖モ改正事業ノ困難ニシテ各地畫ニテ得ルノ容易ナラサル頗ラ當局者ヲシテ此ノ如キハ衡平ヲ得ルノ法ニアラサルコトヲ咸知セシムルニ至リ終ニ一定ノ年間ハ地價ヲ据置キ其經過スルヲ待テテ一整ニ之ヲ改正ス爲メ方針ヲ取ラシムルニ至レリ然レトモ實際ノ經驗ハ此第二ノ方針モ亦言フヘクシテ行フヘカラサル事ニ屬スルコトヲ明ニシ明治十七年地租條例ヲ制定セララルニ及ビ其第八條ヲ以テ「一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘキコトト爲シタリ明治七年第五十三號布告ハ地價ヲシテ法定のモノタラシムル第一歩ナリシニハ相違ナシ然レトモ該布告ハ尙ホ一定ノ年間後ハ地價ヲシテ賣買實價ニ一致セシムヘキコトヲ豫期スルモノナルカ故ニ地價ノ法定のナルハ唯其期間中ニ於テノミナリト謂フコトヲ得ヘシト雖モ地租條例ハ更ニ一步ヲ進メ地租ノ改正ハ法律ノ制定ニ因リテ始メテ之ヲ爲スヘキコトヲ明ニシタルヲ以テ地價ハ地租條例ニ依リテ固定不動ノモノト爲リ純然タル法定價格ト爲リタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ今日ニ於テハ地價ヲ變更セントセハ獨リ其一般ノ修正ニ於テ法律ノ制定ヲ要スルノミナラス其一部ノ修正ニ於テモ亦

必ス法律ノ規定アルコトヲ要スルモノトス地租條例第七條ハ地價ハ地目變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非サレハ之ヲ修正セスト規定シタルハ此趣旨ヲ明ニシタルモノナリ該條カ後ニ説明スヘキカ如ク地價修正ヲ爲スヘキ場合ノ全部ヲ包含セサルハ規定ニ不備アルヲ免レスト雖モ元來第十條以下ノ規定アレハ該條ノ如キハ之ヲ揭タルノ必要極メテ少キモノナルヲ以テ規定完備ヲ缺クモノ實際ニ於テハ甚シク事ニ害アルモノニアラサルナリ

一 地價ヲ修正スヘキ場合

地價ナルモノハ地租計算ノ標準ニ過キサルカ故ニ苟モ彼此ノ權衡ニシテ其實得タルンカ地租ノ負擔ハ自ラ衡平ヲ得ヘク標準タルノ效ハ茲ニ完キヲ得ルモノナリ其實買實價ニ適合スルト否トノ如キハ問ハスシテ可ナリ現行地價ノ現時ノ土地價格ト一致セサルコトハ殆ト言フヲ須タサル所ナリト雖モ當初之ヲ設定セララルニ當リテハ縣ヨリ郡ニ及ホシ郡ヨリ町村ニ及ホシ以テ一筆ニ至リ彼此相比較考量シテ之ヲ定メタルモノナルカ故ニ其間ニ於ケル權衡ハ先ツ相保タレタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ之ヲ標準トシテ地租ヲ課スルベシ

之ヲ以テ土地所有者間ニ不公平ナキニ庶幾キモノト謂ハサルヘカラス然レトモ彼此權衡ヲ得タリト謂フハ其當時ノ現狀ニ於テ之ヲ謂フモノナルヲ以テ其狀況ニシテ著シク變更スルトキハ其權衡ハ自ラ之ヲ保ツコトヲ得サルニ至ルヘシ隨テ勢ヒ其變更セタル狀態ニ依リテ更ニ彼此ノ權衡ヲ測リ以テ其地價ヲ修正スルニアラサレハ之ヲシテ適當ナル課稅標準タラシムルコト能ハス故ニ地租條例ハ土地ノ形狀ニ著シキ變更アリテ其利用ノ狀態全ク一變シタルカ如キ場合ニ於テハ地價ヲ修正スヘキモノト爲スヲ以テ其現況ニ應シタル賦課ヲ受ケシメントセリ予ハ今左ニ其場合ヲ列舉シ簡短ニ其説明ヲ加ヘントス

(甲) 地目變換ヲ爲シタルトキ

地目變換トハ有租地中ノ第一類又ハ第二類ニ屬スル或地目カ同類地中ノ他ノ地目ニ變スルヲ謂フ地租條例第三條第三項例ヘハ畑ヲ田ニ變シ郡村宅地ヲ畑ニ變シ山林ヲ牧場ニ變スルカ如シ此場合ニ於テハ土地ノ利用ノ狀態ヲ變更スルヲ以テ自ラ其收益ニ異同ヲ生スヘシ故ニ法律ハ其地價ヲ修正シテ同地目ノ他ノ土地ニ對スル權衡ヲ取リ以テ地租ノ負擔ヲシテ公平ナラセムルヲ相當

爲シタリ(地租條例第七條但シ地租條例第七條及ヒ地目變換地ノ地價修正ニ關スル法文ハ總テ地目變換ヲ爲シタル場合即チ土地所有者カ其意思ヲ以テ土地ノ利用方法ヲ變更シタル場合ニ付テ規定スルカ故ニ所有者ノ意思ニ因ラサル地目ノ變換ノ場合即チ法律ヲ以テ地目ヲ組換ヘタル場合ニ於テハ其適用ヲ見サルモノトス故ニ明治三十二年法律第三十二號宅地組換法ニ依リ命令ヲ以テ郡村宅地ヲ市街宅地ニ組換ヘ又ハ市街宅地ヲ郡村宅地ニ組換フルコトアルモ其地價ハ修正スヘキモノニアラサルナリ

地目變換ノ場合ニ於テハ地價ノ修正ヲ爲スヘキモノナリト雖モ其變換ノ狀態如何ニ因リ法律ハ修正ヲ爲スヘキ時期及ヒ修正地價ヲ適用スヘキ時期ヲ異ニシタルヲ以テ予ハ法律ノ區別ニ從ヒ場合ヲ細別シテ説明ヲ爲スヘシ

(イ) 地目變換ニシテ開墾ニ等シキ勞費ヲ要セサルモノ地租條例第一〇條第二項 土地所有者カ地目ノ變換ヲ爲スハ多クハ其土地ノ形狀位置カ變換ヲ爲スニ便宜多キヲ以テ之ヲ爲スモノナルヲ以テ地目變換ハ通常甚シキ勞費ヲ要スルモノニアラス此ノ如キ土地ハ變換ノ年ヨリ五年以内ニ於テ適宜其地價ヲ修

正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノトス變換ノ年ニ於テ直
 ナニ地價ヲ修正スヘキモノト爲ナスシテ五年間ノ猶豫ヲ置キ其間ニ適宜修正
 ヲ爲スヘキモノト爲シタル法律ノ趣旨ニ年年變換地ノ檢査ヲ爲スノ努力ヲ省
 キ五年間ニ生シタル變換地ヲ一纏ト爲シ五年毎ニ一回ノ檢査ヲ以テ其整理ヲ
 了セントスルニ在リタルモノノ如シ然レトモ實際ニ於テハ此趣旨ノ行ハレタ
 ルヤ否ヤハ頗ル疑ハシキモノアルニ似タリ
 (ロ) 地目變換ニシテ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノ地租條例第一四條第一六
 條第六項第一九條 普通ノ地目變換ハ多クハ地勢ノ便宜ニ依リテ之ヲ爲スモ
 ナルカ故ニ變換ヲ爲スト同時ニ變換シタル地目トシテノ利用ヲ完ウスルコト
 ヲ得ヘシト雖モ土地ノ形狀如何ニ因リテハ此ノ如キ便宜ヲ有セス例ヘハ畑ヲ
 變換シテ田ト爲スニモ殆ト山林又ハ原野ヲ開墾シテ田ト爲スニ讓ラサルノ勞
 費ヲ要スルコトアリ此ノ如キ變換地ニ在リテハ相當ノ年所ヲ經過スルニアラサ
 レハ變換シタル地目トシテノ利用ヲ完ウセサルモノ多ク普通ノ場合ニ於ケル
 カ如ク六年目ヨリ修正地價ニ依リテ地租ヲ徵收スルモノトセハ地方ニ比シテ負

擔ノ相當セサルカ如キ場合ナシトモ故ニ法律ハ實地ノ情況ニ依リ三十年以
 内ノ地價據置年期ヲ許可セザル年中ハ現ニ有スル地價ニ依リテ地租ヲ賦課セザ
 ル期明ニ至リ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リテ地租ヲ賦課スルコトヲ許シ
 タリ但シ地價據置年期ハ出願ニ因リテ許可スルモノナルヲ以テ地租條例施行
 規則第一四條地目ヲ變換シ開墾ニ等シキ勞費ヲ要シタル場合ト雖モ地價據置
 年期ヲ出願セサルモノハ變換ヨリ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ五年目ヨリ修
 正地價ニ依リテ地租ヲ徵收スヘキモノトス
 地租條例第十八條ハ其第十六條第三項第四項第五項ノ年期限明ニ至リ事業成功
 ニ至ラサルモノハ更ニ繼年期ヲ許可スヘキコトヲ規定スト雖モ第十六條第六
 項ノ年期限明ニ至ラハ之ヲ延長スルコトヲ得サルモノトス故ニ年期限明ニ於テ既ニ地目
 ノ變換シタルモノハ地價ヲ修正シテ其年ヨリ修正地價ニ依リテ地租ヲ徵收セ
 サルヘカラス然レトモ元來此ノ如キ土地ニ付キ地價ヲ修正スル所以モモノハ
 地目ヲ變換シタルニ因ルモノナルカ故ニ年期限明ニ至リ地目變換成功セサルト

キハ地價ヲ修正スルコト能ハス予ノ見ル所ヲ以テ之ニ此場合ニ於テハ年期ハ滿了ト共ニ消滅スルガ故ニ爾後變換成功スルトキハ無年期ノ變換地トシ事實變換シタル年ヨリ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ニ至リ修正地價ヲ適用スヘキモノナリト信ス

(乙) 地類變換ヲ爲セタルトキハ第一類地ト爲スヲ謂フ地租條例施行規則第四條例ヘハ第一類地タル田ヲ第二類地タル池沼ト爲シ又ハ第一類地タル畑ヲ第二類地タル原野ト爲スカ如シ此場合ニ於テハ地目變換ノ場合ト同シク土地ノ利用ヲ變更スルヲ以テ前後自ラ收益ヲ異ニスルニ至ルヘク隨テ法律ハ地價ヲ修正シ地租ノ負擔ヲシテ土地ノ所得ニ比率セシムルヘキモノト爲シタルナリ

(地租條例第七條但シ地類變換ノ場合ニ於テハ地目變換ノ場合ノ如ク變換ヨリ五年以内何時ニテモ地價ノ修正ヲ爲シ得ルニテラズ變換ヨリ五年間ハ現地價ニ依リテ地租ヲ課シ六年目ニ至リ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リテ地租ヲ課スヘキモノトス) 地租條例第一〇條第三項 第一四條元來地類變換ナルモノハ

之クハ場合ニ於テハ土地利用ノ改良ニテラズ事ノ利用擴張ノ結果ニ出ツルヲ常トス故ニ舊時ヨリ爲政者ハ好意ノ眼ヲ以テ地類變換ヲ觀ス舊租時代ニ於テハ耕地ヲ原野等ニ變シタル場合ニ於テ其石盛ヲ變更スルカ如キコトハ殆ト稀ナリシノミナラス地租改正後ニ於テモ地類ヲ變シタルカ爲メ地價ノ修正ヲ爲スコトハ久シク之ヲ認メサリナリ然ルニ現ニ第二類地ニ變換シ收益ノ大ニ減少シタル土地ニ對シテ尙第一類地タリシ時ノ地租ヲ課スルハ之ヲ以テ公平ヲ得タルモノト謂フコト能ハサルカ故ニ明治二十二年ニ至リ地租條例ヲ改正シ始メテ地類變換ノ場合ニ於テモ亦地價ノ修正ヲ爲スヘキモノト爲セタリ唯第一類地ノ耕作又ハ修運ヲ怠ルトキハ所有者ハ依然之ヲ第一類地トシテ利用スルノ意思ナルニモ拘ラス容易ニ一見第二類地タルカ如キ狀態ト爲ルモノナルカ故ニ地類ノ變換アルヤ否ヤハ之ヲ知ルコト容易ナラス故ニ法律ハ變換ヨリ六年目ニ至リ其第二類地ト爲リタルコトノ確實ト爲ルニ至リテ始メテ地價ヲ修正スヘキモノト爲シタル地目變換地類變換共ニ同シタ六年目ニ至リ修正地價ヲ適用スヘキモノナリト雖モ其五年間ノ猶豫ヲ置キタル所以ノ趣

第一類地就中耕地ニハ時トシテ新ニ畦畔又ハ肥料置場ノ如キモノハ現ニ耕作セラル場所トシテ地面ノ形狀ヲ異ニスルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ二筆中ノ一部分地類變換ヲ爲シタルモノハトシテ取扱ハレタルコトハ管テ見開シタル所ナリ然レトモ畦畔ナルモノハ耕地ヲシテ耕地タラシムル所以ノ設備ニシテ畦畔ハ耕地ヲ離レテ存スルモノニアラス故ニ耕地中ニ畦畔ヲ設クルハ則チ耕地ヲシテ益耕地タルノ利用ヲ完ウセシムルニ近カシムルモノニシテ之ヲ以テ地類變換アリト謂フベカラズ耕地ノ一隅ニ肥料置場ヲ設クル如キモ亦然リ耕地中ニ耕作上必要ナル肥料ヲ藏置スル場所ヲ設クルハ耕地タル利用ヲ爲スニ必要ノ事トス故ニ肥料置場ハ耕地ニ伴フ必要附屬物ニシテ之ヲ設ケタルガ爲メニ其土地ハ耕地以外ノ土地ト爲リタリト謂フヲ得ス隨テ左ニ舉グル如キ場合又ハ之ニ類似シタル場合ニ於テハ地類變換ニ伴フ法律上ノ效力ヲ生セシムベキモノニアラス現今ノ實際ニ於テハ此趣旨ヲ以テ取扱ヲ爲スモノ如シキモノハ地租法ノ結果ニ出マ

(四) 開墾ヲ爲シタルトキ
開墾トハ有租地中ノ第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スヲ謂フ地租條例第三條第三項例ヘハ山林ヲ開墾シテ畑ト爲シ原野ヲ變換シテ郡村宅地ト爲スカ如シ此ノ如キハ土地ノ利用全ク一變スルカ故ニ地價モ亦隨テ之ヲ修正スヘキモノトス(地租條例第七條地租條例第三條第三項ニ依レハ土地ノ開墾アリト言フニハ第二類地ノ第一類地ニ變シタルコト及ヒ之カ爲メニ勞費ヲ要シタルコトノ二條件具備スルコトヲ要ス故ニ第二類地ヲ第一類地ニ變スルモ之カ爲メニ勞費ヲ要スルコトナケレハ法律上ハ之ヲ開墾ト謂フコト能ハス例ハ雜種地タル物干場ヲ郡村宅地ニ變スルニハ場合ニ因リテ何等ノ勞費ヲ要セサルモノナリ此ノ如キ場合ニ於テハ第二類地變シテ第一類地ト爲ルモノナリト雖モ地租條例ノ所謂開墾ニアラス隨テ此場合ニ於テハ地價修正ナルコト起ラサルナリ土地ノ利用ヲ變シタル場合ニ於テハ地價ヲ修正スルヲ可ナリトモハ利用ノ變更ノ實メニ勞費ヲ要スルト否トニ依リ區別ヲ設クルハ理由ナキカ如レト雖モ立法ノ意ハ恐クハ勞費ヲ要セスシテ第二類地ヲ第一類地ト爲ストヲ得

タルカ如キ狀態ニ在リシ土地ハ多クハ第二類地タリシ時に於テ既ニ其所得殆
ト第一類地ト爲リタル時ニ於ケルモノト相若ケルモノトナリ以テ其有シタ
ル地價モ別ニ之ヲ修正セシメシテ第一類地ト爲リタル後ニ適用シテ不權衡ナカ
ルヘシト認メタルニ在ルナルヘシ但シ法律ノ所謂勞費ヲ加ヘ下ハ如何ナル程
度ノ勞費ナルヤハ事實ノ問題ナルカ故ニ實地ノ狀況ニ依リテ之ヲ判別スヘキ
モノトス而シテ現今實際ニ於テ行ハル所ヲ見ルニ第二類地ヲ第二類地ト爲
シタルトキハ殆ト常ニ勞費ヲ要シタルモノト爲シ地價ヲ修正セラルルモノ
如シ一筆ノ土地中ニ畦畔肥料置場小運小池等ノ如キモノヲ設ケルモ之ヲ以テ地類
ヲ換ト見ルヘカラサルカ如ク既ニ存スル畦畔肥料置場小運小池等ノ如キモノ
ヲ廢除シテ他ノ部分ト同一ノ地面ト爲スモ亦之ヲ開墾ト謂フヘカラス何トナ
シハ既ニ一筆ノ土地ニ附屬スルモノトシテ之ト同一地目ヲ有スル以上之ヲ
廢除スルハ益同一地目タルコトヲ明ニスルモノニシテ其間第二類地ヲ第一類
地ニ變シタルコトナキヲ以テナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ地價ノ修正ナル

コトハ生セサルナリ
開墾ヲ爲シタルトキハ地價ヲ修正スト雖モ開墾成功ノ難易ニ依リ法律ハ地價
ヲ修正スル時期ヲ同フセス
(4) 開墾ニシテ十年以内ニ成功シ得ヘキモノト爲シ十年以上ニ成功シ得ヘキモノト爲シ
(一) 届出ヲ爲シテ開墾ヲ爲シタル場合地租條例第一六條第一項第二項「十年
以内ニ成功シ得ヘキ開墾」ヲ爲ストキハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ至リ地價ヲ
修正スルモノトス但シ開墾ノ場合ニ於テ地價ヲ修正スルハ土地ノ利用變更シ
タルニ因ルモノナルカ故ニ若手後十年目ニ至ルモ開墾成功セサルトキハ地價
ヲ修正スルコトヲ得ス若手後十年目ニ於テ土地ノ一部分成功シテ他ノ一部分未
タ成功ニ至ラサルトキハ地租條例施行規則第二條ニ依リ成功シタル部分ヲ分
割シテ別筆ト爲シ其地價ヲ修正スヘキモノトス
開墾着手後十年目ニ於テハ未タ成功セザリシモ十一年目以後ニ於テ成功シタ
ルトキハ何レノ時ニ於テ地價ヲ修正スヘキヤ地租條例其他地租ニ關スル法令
ニ於テハ此場合ニ付テ何等ノ規定ヲ爲サズ地租條例第十六條第三項ニ十年

以內ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ、銀下年期ノ許可ヲ受ケヘキコトヲ定ムルカ故ニ、若手後十年目ニ至リ尙ホ成功ニ至ラサルトキハ、十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ナリシコト確實ト爲リタルヲ以テ其際ニ於テ出願ヲ爲シ、銀下年期ヲ受ケサルヘカラスト言フ者アルヘシト雖モ問題ハ十年目以後ニ於テ成功シタルトキハ何レノ時ニ於テ地價ヲ修正スヘキヤト云フニ在ルカ故ニ、銀下年期ヲ受ケヘキモノナリト言フハ問題ノ解答ニ適切ナラズ況ヤ該條項ハ開墾ヲ爲サントスルトキ即チ開墾着手ノ際ニ於テ適用アルヘキモノニアラサルヲ本問題ノ如ク若手後年所ヲ經タル後ニ於テハ適用アルヘキモノニアラサルニ於テラヤ或ハ又十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ、銀下年期ヲ受ケヘキモノナルカ故ニ、銀下年期ヲ出願セス單ニ開墾ヲ爲サントスルコトヲ届出ラタル場合ニ於テハ其届出タル十年以内ニ成功スヘキ開墾ヲ爲スノ意ヲ表シタルモノト謂ハサルヘカラスト果シテ然ラハ若手ヨリ十年目ニ至リ開墾成功セサルトキハ當初届出ノ效力ハ消滅スルモノナリ故ニ尙ホ繼續シテ開墾ヲ遂行セントスルハ新ニ開墾ヲ爲サントスル者ト異ナルコトナシ

ヲ爾後ハ成功ノ時期ヲ計リ更ニ開墾ノ届出ヲ爲スカ又ハ、銀下年期ノ許可ヲ出願セサルヘカラスト而シテ開墾ノ届出ヲ爲シタルトキハ其年ヨリ十年目ニ至リ地價ヲ修正スヘキコト銀下年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ其年期明ノ年ニ於テ之カ修正ヲ爲スヘキモノトス若シ此手續ヲ爲ササルトキハ無届ノ開墾ト爲ルヘクシテ法律ノ定メタル制裁ヲ免ルルコトヲ得サルベシト論ズル者アラシキハ此論ヲモ賛成スルコトヲ得ス勿論開墾ノ届出ハ論者ノ主張スル如ク十年以内ニ成功シ得ヘキ開墾ヲ爲スノ意ヲ以テ爲シタルモノト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ若手ノ時ニ於テ成功時期ヲ豫定シテ届出ヲ爲サシムルトキハ其時期ハ豫定ニ對シテ多少ノ差違ヲ生スルコトアルヘキハ法律ノ豫期スル所ト謂ハサルヘカラスト十年以内ニ成功スヘキ開墾ヲ爲スコトヲ届出タル場合ニ於テモ時ヲ計テハ十年以内ニ成功セサルコトアルヘキコトヲ豫期スル法律ニシテ其不成功ノ場合ニ於テハ更ニ届出又ハ出願ヲ爲スノ意アルモノトモ必スヤ明文ヲ以テ之ヲ規定セサルカラスト然ルニ開墾ニ關シテハ地租條例施行規則第十五條ハ之ニ若手セントスルトキ其成功シタルトキ又ハ之ヲ廢止シタルトキハ必ス之カ

届出ヲ爲スヘキコトヲ規定シテ届出ヲ爲スヘキ場合ヲ明ニスルニ拘ラス十年目ニ成功セサルヲ爲メ繼續シテ之カ遂行ヲ勉ムル場合ニ付テハ何等ノ規定ヲ爲サス見ルヘシ法律ノ意ハ問題ノ如キ場合ニ於テ更ニ届出又ハ出願ヲ爲サシムルニ在ラサルコトヲ予ノ見ル所ヲ以テスレバ開墾ヲ爲シタル場合ニ於テハ地價ヲ修正スヘキコト地租條例第七條規定ノ裏面ニ於テ疑ヲ容レサル所ナリ既ニ開墾ノ場合ニ於テ地價ヲ修正スヘキモノトモハ法律ノ規定ニ依リ特ニ修正スヘキ時期ヲ定メタル場合ノ外ハ成功ノ時ニ於テ之ヲ修正スヘキ當然ナリ開墾ノ届出ヲ爲シ若手後十年以内ニ成功シタルモノ及ビ繰下年期ノ許可ヲ受クタルモノニ付テハ法律ハ特ニ地價修正ノ時期ヲ定ムト雖モ問題ノ如キ場合ニ於テハ法律ハ特ニ其時期ヲ定メス故ニ事實開墾成功シタル時ニ於テ其地價ヲ修正スヘキモノナリト信ス

(b) 届出ヲ爲サスシテ開墾ヲ爲シタル場合地租條例第二七條 第二類地ヲ第一類地ト爲シタルモノハ開墾成功ト雖モ其地力直チニ開墾シタル地目トシテ利用ヲ完ウスルニ至ラサルコト多シ故ニ法律ハ地力ノ稍ヤ成熟スルマデハ其

地租ヲ増加セサルカ爲メ開墾若手ヨリ九年間ハ總令其土地ハ既ニ第一類地ト爲ルモ其地租ハ尙ホ第二類地タリシ時ノ地價ニ依リテ之ヲ徵收スヘキモノト爲シ以テ開墾者ノ利益ヲ圖リタリ然レトモ凡ソ法律カ特定ノ者ヲ保護シ又ハ其利益ヲ圖ルハ其者カ法律ノ命スル條件ヲ踐行シタル場合ナラサルヘカラス開墾ノ場合ニ於テモ亦然リ土地所有者ニシテ九年間第二類地タリシドキノ地價ニ依リテ地租ヲ徵收セラルルノ利益ヲ享ケントセバ開墾ニ先チ之カ届出ヲ爲シ以テ行政官廳ヲシテ一定ノ時期ノ到來シタルドキノ地價ヲ修正スルヲ得ルノ覺知ヲ有セシメサルヘカラス此手續ヲ踐行セサル土地所有者ハ法律ノ定メタル利益ヲ享タルコトヲ得ス無届開墾ヲ爲シタルコト發覺シタル時現地目ニ依リ地價ヲ修正シ原地價ニ依ル地租ト修正地價ニ依ル地租トノ間ニ増差額アルトキハ事實開墾成功ノ年マテ廻リ其差額ヲ追徵セラルルヲ免ルルコトヲ得ス即チ利用變更ノ年ヨリ改正地價ヲ適用シ其間ニ些ノ利益ヲモ有セシメサルナリ但シ法律ハ發覺ノ日ヨリ三年前以前ニ廻リ追徵ヲ爲スコトヲ許ササルヲ以テ成功ノ年ニシテ發覺ノ日ヨリ三年以上上ヲ經過シタルトキハ其三年以上

ニ涉ル年間ニ對スル増租額ハ之ヲ追徴スルモト爲メモトス其第三項以上
 (ロ) 開墾ニシテ十年以内ニ成功シ能ハサルモノハ十年以内ニ成功シ能ハサル
 開墾ヲ爲サントスルトキハ稅務管理局長ニ願出テ三十年以内ニ墾下年期ノ許
 可ヲ受クルコトヲ得ルモノナリ地租條例第一六條第三項地租條例施行規則第
 一四條墾下年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收セ
 ラレ之ヲ増加セラレサルモノナリ地租條例第十六條第三項ハ墾下年期ノ許可
 ヲ受ケヘシト命令的ニ規定シタルヲ以テ十年以内ニ成功スルノ見込ナキ開墾
 ヲ爲サントスル者ハ必ス之ヲ許可ヲ請ハサルヘカラサルカ如シト雖モ元來十
 年以内ニ成功スルヤ否ヤハ見込ヲ以テ之ヲ定ムルモノナルカ故ニ土地所有者
 カ墾下年期ヲ出願セサルトキハ之ヲ以テ十年以内ニ成功スル見込ヲ有スルモ
 ノト爲ササルヲ得サルヲ以テ該條ハ命令的規定ハ實際ニ於テハ權能的规定ナ
 ルト強テ差違アルニアラサルカリトイハル可キ其後地租條例第十六條ハ其
 墾下年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ年期限ニ至リ事業尙ホ成功ニ至ラサルモ
 ノハ更ニ二十年以内ハ繼年期ヲ與ヘ之ヲ延長スルモノトヲ得ルモノナリ地租條

例第一八條(一) 地租條例第十八條ハ新開免租年期ノ延長ニ關シテ適用セラルル
 モノニシテ予ハ新開地ニ關シテハ法律ノ所謂事業成功ニ至ラズトハ理立工事
 ノ竣成セサルコトヲ謂フニアラスシテ地力ノ成熟セサルコトヲ謂フモノナル
 コトヲ斷言セリ開墾地ニ關シテモ亦之ト同一ニ解釋シ土地ハ既ニ第一類地ノ
 形狀ヲ爲スモ其地力尙ホ成熟セサルトキハ開墾成功ニ至ラサルモノト爲シ墾下
 年期ノ延長ヲ爲スコトヲ得ルヤ予ハ此問題ニ對シテハ積極ノ答辯ヲ爲スヘキ
 モノナリト信ス何トナレハ地租條例第十八條ハ「事業成功ニ至ラサルモノ」
 ナル文章ヲ以テ開墾地及ヒ新開地ノ雙方ニ關聯セシム而シテ既ニ述ヘタル如
 ク新開地ニ付テハ其意地力ノ成熟スルニ至ラサルコトヲ指稱スルニ在ルコト
 明ナリトセハ獨リ開墾地ニ付テノミ之ヲ他ノ意義ニ解スルコト能ハサルヘキ
 ヲ以テナリ人或ハ地租條例第十六條第二項及ヒ第三項中ニ用ヒラレタル「成功」
 ル文字ヲ解シ其意義ハ單ニ第二類地力第一類地ト爲ルコトヲ指稱スルモノナリ
 ト爲シ開墾地ニ關シテ用ヒタル成功ナル同一文字ヲハ第十六條ト第十八條ト
 因リテ其意義ヲ異ニスルハ法律解釋ノ當ラ得サルモノナルコトヲ論ズル者アリ

ト雖モ予ハ何故ニ第十六條第二項及ヒ第三項中ニ用ヒラレタル成功ナル文字ハ開墾ノ目的地トシテ利用ヲ完ウスルニ至ルコト即チ第一類地トシテ其地力稍ヤ成熟スルニ至ルコトヲ意味スルモノニアラスト解セザルヘカラサルガヲ理解スルコト能ハス予ハ第十六條ニ用ヒラレタル成功ナル文字ハ開墾ノ目的地トシテ利用ヲ完ウスルニ至ルコトヲ意味スルモノト解スル者ナリ故ニ第十八條ヲ解スルモ之ヲ以テ事業成功ニ至ラサルモノトシテ續下年期ノ繼年期ヲ與フルコトヲ得ルモノナリト謂フモ解釋上些々抵觸アリト信セサルナリ特ニ續下年期ナルモノハ我邦ノ地租制度ニ於テハ舊來ヨリノ慣例ニシテ而モ其趣旨ハ地力ノ成熟スルヲ待テテ始メテ地租ヲ増加スルニ在リタルコトハ舊記ニ徴シテ疑フヘカラサルコトニ屬スルカ故ニ地租條例ヲ解スルニモ地力ノ熟否ヲ以テ續下年期ノ延否ヲ決スヘキモノト爲スハ立法ノ精神ト指テ違カラサルヲ信スルナリ

續下年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ年期終了シタルトキハ其地價ヲ修正ス(地租條例第一九條)地租條例第十九條ハ唯地價ヲ修正スルコトヲ定メ第十三條

ノ如ク特ニ成功ノ部分ニ對シテ之ヲ修正スルコトヲ明言セス然レトモ第十九條ノ場合ト雖モ成功ノ部分ニアラサレハ地價修正ヲ爲スヘカラサルハ無論ナリ何トナレハ開墾ナクシテハ地價ノ修正ヲ爲スヘカラサルハ第七條第十六條等ノ規定ニ依リ疑ヲ容ルヘカラサルヲ以テナリ若シ年期明ノ時ニ於テハ事業未タ成功ニ至リナリシモ繼續シテ之ヲ遂行ヲ力メタルヲ以テ其後ニ至リ終ニ之カ成功ヲ見ルニ至リタルトキハ何レノ時ニ於テ地價ヲ修正スヘキヤ十年以内ニ成功シ得ルノ見込ヲ以テ開墾ニ着手シタル者十一年目以後ニ於テ成功シタル場合ニ付テ既ニ論スル所アリシト同一ノ理由ニ依リ予ハ此場合ニ於テモ亦現實開墾ノ成功シタルトキニ於テ地價ヲ修正スヘキモノナリト信ス

(丁) 開拓ヲ爲シタルトキハ官有未開地ヲ墾開シテ耕地宅地又ハ畑田ノ如キモノト爲シ其所有權ヲ得タルヲ謂フ維新ノ後士族ノ祿制處分ヲ結了スルヤ一方ニ於テハ常職ナキ士族ニ產業ヲ授ケルカ爲メ他ノ一方ニ於テハ荒蕪ニ委セラレタル土地ノ利用ヲ爲スカ爲メ士族ヲ勸誘シテ官有未開地ノ開拓ヲ爲サシメ成

功ヲ條件トシテ無償又ハ廉價ニ其所有權ヲ付與シタル現令ニ於テハ官有地ニ處分ハ各之ヲ規約スル法規ノ存スルアリ開拓シタル土地ヲ無償ニテ下付スルコトハ法令ノ認メサル所ナリト雖モ明治二十三年勅令第二百七十六號官有地取扱規則第七條ハ官有地ヲ開墾セシコトヲ請フ者アルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依リテ其代價ヲ定メ置クヘシト規定スルカ故ニ開拓出願者ハ開拓成功ヲ條件トシテ其土地ノ拂下ヲ受ケタルコトヲ得ルモノナリ此ノ如キ場合ニ於テ開拓成功シ土地ノ拂下ヲ受ケタルトキハ其土地ハ官有ヨリ民有ノ有租地ト爲リタルモノナルカ故ニ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定メ之ニ依リテ地租ノ賦課ヲ爲スヘキカ如シト雖モ新ニ未開地ヲ開拓シタル場所ハ一應ノ開拓ヲ終リ其地面ノ形狀ヲ耕宅地等ト爲スモ其地力ハ尙ホ成熟ヲ缺クコト多ク故ニ開拓者ニ於テ暫ク假ニ未開地ト看做シテ地價ヲ設定シ一定ノ年間之ニ依リテ微租ヲ年滿了シタル場合ニ於テ始メテ其地ノ現況ニ應ジテ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ賦課セラレンコトヲ出願スルモノハ十年以内適宜年期ヲ定メ之ヲ

許可スルコトヲ得ルモノトス此年期モ亦法律ハ之ヲ釐下年期ト稱シタル地租條例第一六條第四項第一九條ニ依リテモ未開地ノ開拓者ハ其地力ハ尙ホ成熟ヲ缺クコト多ク故ニ開拓者ニ於テ暫ク假ニ未開地ト看做シテ地價ヲ設定シ一定ノ年間之ニ依リテ微租ヲ年滿了シタル場合ニ於テ始メテ其地ノ現況ニ應ジテ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ賦課セラレンコトヲ出願スルモノハ十年以内適宜年期ヲ定メ之ヲ許可スルコトヲ得ルモノトス此年期モ亦法律ハ之ヲ釐下年期ト稱シタル地租條例第一六條第四項第一九條ニ依リテモ未開地ノ開拓者ハ其地力ハ尙ホ成熟ヲ缺クコト多ク故ニ開拓者ニ於テ暫ク假ニ未開地ト看做シテ地價ヲ設定シ一定ノ年間之ニ依リテ微租ヲ年滿了シタル場合ニ於テ始メテ其地ノ現況ニ應ジテ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ賦課セラレンコトヲ出願スルモノハ十年以内適宜年期ヲ定メ之ヲ

故ニ開拓釐下年期ヲ有スル土地ニシテ開拓ノ成功セサルモノアルヘキモノニアラス故ニ地租條例第十八條ノ所謂事業成功ニ至ラサルモノトハ新開地又ハ開墾地ニ付テ論シタル如ク開拓地ニ付テモ亦地力ノ成熟セサルコトヲ意味スルモノト謂ハサルヘカラス

(戊)耕地ノ區畫形狀ヲ變更シ開墾ニ等シキ勞費ヲ要シタルトキ或ハ其地租條例第十六條第六項ハ耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ……開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許可スルコトアルヘシト規定シ其第十九條ハ地價据置年期明……時其地價ヲ修正スル規定スルカ故ニ耕地ノ區畫形狀ヲ變更シタル者多額ノ費用ヲ要シ

タルトキハ地價据置年期ノ許可ヲ出願スルコトヲ得ルナリ而シテ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタルモノハ年期明ノ時其地價ヲ修正セラルモノトス地租條例第七條ハ地目變換開墾又ハ地類變換ノ場合ニアラザレバ地價ヲ修正セザルコトヲ明言ス耕地ノ區畫又ハ形狀變更ハ地目變換ニアラス何トナレハ法律ハ地目變換ノ爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スル場合ニ付テハ特ニ規定ヲ爲シ之ヲ區畫形狀ノ變更ト區別シタルヲ以テナリ又開墾又ハ地類變換ニモアラス何トナレバ耕地トハ同シク第一類地中ノ地目タル田畑ヲ指稱スル用語ナルヲ以テ其區畫形狀ノ變更ハ開墾又ハ地類變換ノ如ク全ク地類ヲ異ニスルニ至ル場合ニ關係ナキヲ以テナリ果シテ然ラハ耕地ノ區畫形狀變更トハ同一地目中ニ於テ各筆ノ區域又ハ其高低ヲ變更スルコトヲ謂フモノニシテ地租條例第七條ノミノ規定ヲ以テ言ヘハ地價ヲ修正スヘキ場合ニアラス唯其第十六條第六項及ヒ第十條ノ特別規定アルカ爲メニ地價修正ヲ爲サザルヘカラサルノミ元來區畫形狀ノ變更ヲ爲シタルトキニ於テハ多クハ土地ノ分割又ハ合併アルモノナラヲ以テ直チニ地價ノ分配又ハ合併ヲ爲シテ其各筆ノ地價ヲ定メサルカス

チルモノナリ若シ土地改良上必要ヨリ此場合ニ於テ直チニ分合筆ノ手續ヲ爲スヲ不可ナリトセハ立法上之カ手續ヲ爲ス時期ヲ一定ノ年間後ニ定ムルコト何等ノ妨ナシ然ルニ法律ノ規定ハ茲ニ出ラス多クハ土地改良ノ目的ヲ以テ遂行セラルモノナル區畫形狀變更ノ場合ニ於テ一定ノ年間後ハ必ス其地價ヲ修正スヘキモノト爲シタルヲ予ハ其意ニ在ル所ヲ知ルニ苦シムナリ然レトモ予ノ茲ニ説明セントスル所ハ立法ノ可否ニ在ラスシテ成文法ノ解釋ニ在リ故ニ第十六條第六項及ヒ第十九條ノ如キ明文ノ下ニ於テハ此場合モ亦地價修正ヲ爲スルモノノ場合トシテ之ヲ舉ケサルヲ得スモ其ノ與メ無キ地價据置年期ハ之ヲ延長スルヲ得ルヲ規定ナキヲ以テ一タヒ付與シタル年期終了スルトキハ常ニ地價ノ修正ヲ爲スヘキモノニシテ更ニ繼年期ヲ與フルコトヲ得サルモノトス又ハ合併ノ後ニ於テハ合併ノ前ノ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタル區畫若シハ形狀ヲ變更スル場合ニ於テ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタルモノハ二箇ノ條件ヲ要ス即チ一ハ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルコトニシテ他ハ一ハ地價据置年期ノ許可ヲ出願スルコト是ナリ若シ耕地ノ區畫若シハ形狀ヲ變更

其ノ場合ニ於テ開墾ニ等シキ勞費ヲ要セタルカ若クハ之ヲ要スルモ地價据置年期ノ許可ヲ出願セサルトキ第十六條第六項ヲ適用スルコトヲ得ず隨テ第十九條モ亦其適用ナキヲ以テ此場合ニ於テハ地價ノ修正ナルコトヲ生ゼス但シ之カ爲メニ土地ノ分割又ハ合併ヲ爲シタルトキハ分合筆ノ場合ニ於ケル手續ヲ爲ササルヘカヲササルモノトス

土地區劃改良ノ場合ニ於テハ後ニ説明スヘキカ如ク明治三十年法律第三十九號ヲ以テ土地所有者ノ爲メニ甚タ利益ナル規定ヲ設ケラレタルヲ以テ地租條例第十三條第三項前段ノ規定ハ今後實際ニ適用セラルコトハ甚タ希ナルヘシ

(巳) 開墾地免租年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期明ニ至リ其地力復舊セサルトキハ其利用ヲ完ウスルヲ得サルヲ以テ一定ノ期間其地租ヲ免スルコトヲ得ヘキハ前段ニ之ヲ述ベタリ而シテ此ノ如ク一定ノ期間ヲ限リ地租ヲ免スル所以ハモノハ期間満了ノ後ハ地目地力共ニ従前ノ

狀態ニ復スヘキコトヲ豫期スルニ因ルモノナリ然レニ被害ノ狀況ニ因リテ其到底従前ノ地目ニ復スルコト能ハスシテ年期明ノ時ニ於テ他ノ地目ト爲ルコトアリ又幸ニ年期明ノ時ニ於テ地目ハ復舊スルモ其地力ハ亦昔日ノ如クナルコト能ハサルコトアリ前者ノ場合ニ在テハ土地ノ利用ハ全ク一變スルカ故ニ従前ノ地價ニ依リテ地租ヲ徵收スルハ全ク實地ニ適當セス後者ノ場合ニ在リテハ地目ハ既ニ復舊セタルモノナルヲ以テ勉メテ地力ノ回復ヲ謀ルトキハ其復舊スルヲ期スヘカラサルニアラス故ニ後ニ説明スヘキカ如ク法律ハ暫ク低價年期ヲ付與シ一定ノ年間地力ニ應シテ低減シタル地租ヲ課シ其年期明ヲ待テテ原地價ニ復スルコトヲ許シタリト雖モ場合ニ依リテハ其低價年期明ニ至ルモ尙ホ原地力ニ復セサルコトナシトモ此ノ如キ土地ニ對シ年期満了シタルノ一事ヲ以テ必ズ原地價ニ依リ地租ヲ徵收セサルヘカラスト爲ストキハ地租負擔其他ノ收益ト比準ヲ得サルニ至ルヲ免レス法律ハ曠地租免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變シタルモノ及ヒ低價年期明ニ至リ原地力ニ復セサルモノニ付テハ其地ノ現況ニ應シテ地價ヲ修正シ地租ノ負擔上土地ノ收

金トノ間ニ甚シキ不備有ナラシメテ、期シタリ(地租條例第二條第二三條)目ニ於テ、地價ノ修正ヲ爲スヘキ場合トシテ規定スル所ハ以上掲タル所ノ如シ而シテ以上簡短ニ説明シタル所ハ其普通ノ場合ニ於テ適用セタルヘキモノナリ然ルニ土地ノ異動ナルモノハ絶エヌ生スル事實ナルヲ以テ地價ノ修正ヲ要スヘキ狀態ヲ生セシメタル後未タ之ヲ修正セサル時ニ於テ又ハ既ニ之ヲ修正スルモ未タ其修正地價ヲ適用セサル時ニ於テ更ニ地價修正ヲ要スル狀態ヲ生セシメタル場合ニ於テハ上來述タル所ハ自ラ其儘適用スルニシテ能ハサルヘシ何トナレハ最初ニ生セシメタル狀態ニ對シ地價ヲ修正シ又ハ修正地價ヲ適用セントスル時ハ既ニ其狀態ハ現存セサルニ至リタル時ナルヲ以テナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ自ラ之ニ適應スル取扱ヲ爲ササルヲ得ス少シク煩細ニ涉ルノ嫌ナシトセサルモ予ハ茲ニ其例外タルヘキ場合ヲ舉ケ其普通ノ場合ト異ナル所ヲ示サントスルハ、
(1) 地目變換又ハ地類變換後五年以內ニ於テ更ニ地目變換又ハ地類變換ヲ爲

シタルトキ地租條例施行規則第五條(例ヘハ郡村宅地)如ニ變換シタル後三年目ニ至リ更ニ之ヲ田ニ變更シ又ハ山林ヲ原野ニ變換シタル後四年目ニ於テ之ヲ牧場ニ變換シ若クハ畑ヲ原野ニ變換シタル後五年目ニ至リ更ニ之ヲ山林ト爲シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ最初變換シタル地目トシテ利用セントシタル土地所有者ノ意思ハ再度ノ變換ニ因リテ變更シタルモノト見ルコトヲ得ヘシ換言スレハ所有者ハ其好ム所ヲ利用ヲ爲サンカ爲メニ且試ミタル利用ハ之ヲ廢止シタルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ故ニ地價修正ニ關シタル最初ノ變換ヲ眼中ニ置カス再度ノ變換ノミヲ見再度ノ變換ニシテ地目變換ナルトキハ其年ヨリ之ニ依リテ地租ヲ徵收スヘキ再度ノ變換ニシテ地類變換ナルトキハ其年ヨリ六年目ニ至リ地價ヲ修正シ之ニ依リテ地租ヲ徵收スヘキモノトス而シテ既ニ最初ノ變換ヲ以テ廢止セラレタルモノトシ之ヲ眼中ニ置タラ要セサルモノトセハ之ニ對シタル地價ハ適用スヘキ機會ナキモノナルヲ以テ自ラ之ヲ取消ササルヘカラサルコト殆ト言フヲ埃タセル所ナリ
現行租税法論 各種ノ租税 地租 現行地租

地租條例施行規則第五條ハ「再度ノ變換ナル語ヲ用フルヲ以テ一見同條ハ地目變換又ハ地類變換後五年以内ニ以テ唯一回ノ地目變換又ハ地類變換アリタル場合ニ於テノミ適用セラルルカ如シト雖モ此ノ如キハ成文法ノ字句ニ拘泥シテ其精神ヲ埋却スルモノナリ地租條例第十條ハ頗ル簡短ノ規定ニシテ數回ノ變換アリタル場合ニ之ヲ適用セントスルニハ稍ヤ疑議アルヲ免レサルヲ以テ本條ハ之カ施行ヲ完リスルノ趣旨ヲ以テ規定セラレタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ本條ハ一ノ變換後五年以内ニ於テ更ニ變換アリタル場合ニ於テハ其變換ノ回數ニ拘ラス常ニ適用セラルヘキモノニシテ其意義ハ土地ノ利用ヲ變更シタル場合ニ於テ之ニ對スル修正地價ヲ適用スヘキ時期ノ到達前ニ在リテ更ニ其利用ヲ變更シタルトキハ其變更ハ幾回ナルヲ問ハス前ノ變換ニ對シテハ地價ノ修正ヲ爲サス最後ノ變換ヨリ六年目ニ至リ其當時ノ現地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノト爲スニ在ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ地目變換又ハ地類變換後修正地價ヲ適用スヘキ時期ノ到達前ニ於テ地目變換又ハ地類變換ヲ爲シ其變換地ニ對スル修正地價ヲ適用スヘキ時期ノ到達前

ニ於テ更ニ地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ三回目ノ變換ヨリ六年目ニ至ルマデ第一ノ變換ヲ爲ス際ニ於ケル地價ニ依リテ地租ヲ徵收シ三回目ノ變換ヨリ六年目ニ於テ始メテ其地目ニ對スル修正地價ニ依リテ地租ヲ徵收スヘキモノナリ例ヘハ田ヲ郡村宅地ニ變換シタル後第一回目變換四年目ニ至リ之ヲ如ニ變換シ第二回目ノ變換其年ヨリ三年目ニ至リ更ニ之ヲ山林ニ變換シタルトキハ第三回目ノ變換山林ト爲リタル年ヨリ六年目ニ至リ山林ニ對シテ地價ヲ修正シ其年ヨリ之ニ依リテ徵收スヘキモノトス故ニ此場合ニ於テハ第一回目ノ變換ヨリ計算スレハ十一年目ニ至リ始メテ修正地價ヲ適用セラルモノナリ

(ロ) 地目變換又ハ地類變換後五年以内ニ於テ開墾ヲ爲シタルトキハ第一條第一項ノ地目變換後五年以内ニ於テ開墾ヲ爲シタルトキハ地租條例施行規則第六條第一項ノ例ヘハ山林ヲ原野ニ變換シタル後五年以内ニ於テ之ヲ開墾シタル爲シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ十年以内ニ成功シ得ヘキ開墾ニ付テハ開墾若手ノ年ヨリ十年目十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ニシテ餘下年期ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ餘下年期明ニ至リ其成功部分ノ地價ヲ修正シテ地租ヲ

徴收スヘキモノハシテ當初ノ變換ニ對シテハ地價ノ修正ヲ爲ササルモノナリ
此ノ如キハ變換後五年以内ニ於テ更ニ變換ヲ爲シタル場合ニ於ケル取扱規定
ト全ク其趣旨ヲ一ニスルモノナリトテ第四條ノ規定ニ依リテ開墾ノ地租條例施行規則第六條第二項ハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ヲ謂フト雖モ是レ
法定ノ手續ヲ踐行シテ開墾ヲ爲シタル場合ニ付テ規定シタルモノナラバ若シ夫
レ無届開墾ヲ爲シタル場合ニ於テハ發覺ノ同時ニ地價ヲ修正シ三年以上ニ潮
ラナル範圍内ニ於テ事實開墾成功シタル年ヨリ之ヲ適用スルキハ言フ挾タツ
ル所ナリ其ノ他ノ事項ハ第四條ノ規定ニ依リテ決定スルモノナリ
2 地類變換後五年以内ニ於テ開墾ヲ爲シタルトキ地租條例施行規則第六條
第二項ノ地類變換ナルモノハ既ニ述ヘタル如ク多ク場合ニ於テハ特ニ人力
ヲ加フルコトヲ要セス第一類地ノ耕作又ハ修理ヲ等閑ニ付スルトキハ自ラ第
二類地タルノ形狀ヲ呈スルニ至ルモノナルカ故ニ地類變換耕作又ハ修理ヲ怠
リタル者カ土地ノ荒廢ニ歸シタルヲ見テ第一類地トシテ利用ヲ抛棄シタル
場合ニ於テ之ヲ爲スモノナリ然レニ一旦第二類地ニ變換スルノ決意ヲ爲シタ

ル者其未タ地價ヲ修正スルニ至ラサルニ當リ其決意ヲ翻シ再ヒ之ヲ開墾スル
カ如キハ一タニ第一類地トシテ利用ヲ抛棄セントシタルモ土地ノ狀況第一
類地トシテ利用スルニ適スルヲ以テ其適スル所ニ從ヒテ之ヲ利用スルヲ可ナリ
ト爲シ一旦爲シタル變換ヲ取消シタルモノト謂フコトヲ得ヘシ而シテ變換ニ
シテ取消サルモノトキハ初ヨリ變換ナカリシト同一ニ歸スルカ故ニ其開墾シタ
ル地目カ變換前ノ地目ト同一ナルト否トニ從ヒ次ノ如キ效力ヲ生スルモノト
スルニ當リ其ノ他ノ事項ハ第四條ノ規定ニ依リテ決定スルモノナリ
3 當初ノ地目ト同一地目ト爲シタルトキ其例ハハ畑ヲ原野ニ變換シタル後
再ヒ之ヲ畑ト爲シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ同一地目ニシテ管テ何等ノ
變換ナカリシト同一視セラルヘキカ故ニ地價ノ變動ヲ生スルコトナシ
4 當初ノ地目ト異ナリタル地目ト爲シタルトキ其例ハハ畑ヲ原野ニ變換シ
タル後之ヲ郡村宅地ト爲シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ地類變換ヲ取消シ
タルモノト看做サルヲ以テ畑ヲ郡村宅地ト爲シタル場合ト同一ノ取扱ヲ爲
ササルヘカラス隨テ開墾ヲ爲シタル年即チ前例ニ於テ言ヘハ原野ヲ郡村宅地

ト爲シタル年ヨリ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ニ至リ修正地價ニ依リ
 實地租ヲ徵收スルモノトスルニ於テハ其地目タルノ現狀ヲ呈セサルヲ
 (ハ) 地目變換又ハ地類變換後五年以内ニ於テ荒地免租年ノ許可ヲ受ケタル
 トキ(地租條例施行規則第八條) 荒地トハ天災ニ因リ全ク土地ノ形狀ヲ變更ス
 ルモノナルカ故ニ地目又ハ地類ヲ變換シタル後未ダ修正地價ヲ適用スルニ及
 ブスシテ荒地ト爲リタルトキハ土地ハ又變換後ニ於ケル地目トシテ現狀ヲ呈
 セサルニ至ルモクナリ故ニ變換後ニ於ケル地目トシテ地價ヲ修正シ又ハ修正
 地價ヲ適用セントスルニ多クノ場合ニ於テハ其地目タルノ現狀ヲ呈セサルヲ
 以テ事實上ノ不能ヲ見ルニアラスハ必ス實際上ノ不公平ニ陥ルヲ免レヌ是
 レ地租條例施行規則第八條カ此ノ如キ場合ニ於テハ變換ハ取消サレタルモノ
 ト爲シ以テ法律執行ノ圓滿ヲ謀リタル所以ナリ而シテ予ハ此規定ヲ以テ敢テ
 土地所有者ノ意思ニ反スルモノナリトハ信セサルナリ何トモハ變換ノ場合
 ニ於テハ六年目ヨリ修正地價ニ依リ徵租セサルヘカラス荒地免租年ノ許可
 ナリタル場合ニ於テハ年明ニ至ルマデハ地租ヲ徵收セサルモノナリ此二者

ハ嚴正ニ言フトキハ相容レサルモノナリ所有者ニシテ相容レサル事實ノ一ヲ
 希圖スルハ他ノ一ヲ拋棄スルコトヲ前提トスルモノト謂ハサルヘカラス故ニ
 荒地免租年ノ許可ヲ出願シタル土地所有者ハ之ヲ反面ニ於テハ變換ヲ取消
 スノ意思ヲ表示シタルモノト謂フモ妨ナキヲ以テナリ
 變換ニシテ取消サレタルモノト看ル以上ハ荒地免租年ノ有スル土地ノ地目
 ハ變換前ノ地目ナリト謂ハサルヘカラス故ニ年明ノ時ニ於テ左ノ如キ效力
 フ生スルモノトス
 a 當初ノ地目ト同一地目ニ復シタルトキ(例ハ畑ヲ田ニ變換シタル後五
 年以内ニ於テ荒地ト爲リ免租年ノ許可ヲ受ケタルモノ年明ノ時ニ於テ畑
 ト爲シタルカ如シ此場合ニ於テハ地租條例第二十條第二十一條ニ依リ原地價
 ニ復スルモノトス
 b 當初ノ地目ト異ナリタル地目ト爲シタルトキ(例ハ畑ヲ田ニ變換シタル
 後五年以内ニ於テ荒地ト爲リ免租年ノ許可ヲ受ケタルモノ年明ノ時ニ於
 テ田ト爲シタルカ如シ此場合ニ於テ地租條例第二十二條第二十三條ニ依リ其

地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スヘキモノトス地租條例施行規則第八條後段ハ實ニ此趣旨ニ因リテ規定セラレタルモノナリトシテ之ヲ以テ之ニ著手シタル(ニ)開墾若手後十年以内又ハ鐵下年期中ニ於テ地目變換ヲ爲シタル地租條例施行規則第七條 例ハ原野ヲ畑ニ開墾スルノ目的ヲ以テ之ニ著手シタル後十年以内又ハ鐵下年期中ニ之ヲ牧場ニ變換シタル場合ノ如シ此場合ニ於テ所有者ハ一旦土地ヲ第一類地トシテ利用セント欲シタル中途ニシテ其意思ヲ翻シ同シク第二類地中ノ他ノ地目トシテ之ヲ利用スルニ至リタルモノナルカ故ニ最初ノ利用變更ハ之ヲ見ス最後ノ變換ノミヲ眼中ニ置キ其年ヨリ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ其修正地價ヲ適用スヘキモノトス地租條例施行規則第五條等六條第七條ハ其ニ同一ノ精神ヲ以テ規定セラレタルモノナリ

開墾若手後十年以内又ハ鐵下年期中ハ後ニモ説明スヘキカ如ク土地ハ尙ホ第二類中ノ地目ヲ有スルカ故ニ開墾若手後十年以内又ハ鐵下年期中ニ地目變換ナルコトノ生スルハ常ニ第二類地中ノ他ノ地目ニ變スル場合ニ限ルモノナリ故

ニ第二類地ヲ開墾シテ既ニ第一類地ニ異ナラザル地面ノ狀態ト爲ラシメタル後著手後十年以内又ハ鐵下年期中更ニ之ヲ他ノ第一類地中ノ地目タル狀態ト爲シタル場合例ハ原野ヲ開墾シテ一旦畑ト爲シタル者未タ其地價ヲ修正セタルニ先テ更ニ之ヲ郡村宅地ト爲シタル如キ場合ニ於テハ地租條例施行規則第七條ハ其適用ナキモノナリ此場合ニ於テハ唯開墾ノ目的地目ヲ變更シタルモノトシ著手ノ年ヨリ十年目又ハ年期限明ノ時ニ至リ其時ニ於ケル現地目ニ依リ地價ヲ修正スヘキモノトス又地租條例施行規則第七條ハ開墾若手後十年以内ノ明言スト雖モ其趣旨ハ未タ地價ヲ修正セサルトキニ於テト謂フニ在ルモノト解セサルヘカラス何トナレハ著手後十年目ニ至リ既ニ地價ヲ修正シ之ヲ適用シタル以上ハ開墾ナル事實ハ既ニ完成シ且ツ之ヨリ生スヘキ法律上ノ效力ハ既ニ發生シ了リタルモノナルヲ以テ開墾ノ中止ナルモノヲ生スヘキ理ナキヲ以テナリ

(ニ)開墾若手後十年以内又ハ鐵下年期中ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキ此場合ニ關シテハ法令中特ニ何等ノ規定ヲ爲シタルモノナシト雖モ

地目變換又ハ地類變換後五年以内ニ於テ荒地免租年期ヲ許可ヲ受ケタル場合ト其取扱ヲ異ニスヘキ理由ヲ見サルヲ以テ該場合ニ付テ説明シタル所ハ悉ク此場合ニ準用セラルヘキモノナリ即チ開墾ハ取消シタルモノト爲シ免租年期明ニ至リ開墾前ノ地目ニ復シタルトキト地價ノ復舊ヲ爲シ其地目ト異ナリタル地目ト爲リタルトキハ地價ヲ修正ヲ爲スヘキモノトスルハ其地目ト異ナリタル(一)開拓墾下年期中地目變換又ハ地類變換ヲ爲シ若クハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキ 此場合ニ關シテモ亦法令中特ニ規定シタルモノナシ開墾ト開拓トハ實際ノ所作ニ於テハ全ク同一ニシテ唯開墾シタル土地ハ初ヨリ民有ナリシト當初ハ官有ニシテ開拓ニ因リ民有ニ歸シタルトシテ差アルノミ故ニ開拓墾下年期中ニ異動アリタル場合ニ於ケル法律上ノ效力ハ開墾墾下年期中ニ於ケル異動ノ場合ト同一ナルヘキカ如シ然レトモ予ハ此ニ場合ハ其法律上ノ效力ヲ全然異ニスヘキ大ナル理由ヲ有スルモノナリト信ス開拓ノ場合ニ於テハ土地ノ墾闢成功シタル後既ニ第一類地ノ地目ヲ有スルモノニ對シ絶ニ荒地タルノ地價ヲ付セテ墾下年期中許可スルモノナルヲ以テ現ニ付シタル地價ハ其土

地カ民有ト爲リタル後ノ狀態ニ對シテハ當テ適應セタルモノトナキモノナリ故ニ年期中明ニ定レハ必ス之ヲ修正セサルヘカラサルハ法律ノ豫期スル所ニシテ而モ年期中明ニ至ルマデハ故ラニ不適當ノ地價ヲ適用スルコトモ亦法律ノ定ムル所ナリ之ニ反シテ開墾ノ場合ニ在リテハ土地カ尙ホ第二類地タル時ニ於テ現ニ之ニ適應シタル地價ヲ有スルニ對シ墾闢ノ成功スヘキ期間ヲ計リテ之ニ墾下年期中許可スルモノニシテ開墾ヲ中止シタルトキハ現ニ有スル地價ヲ適用スルハ最も實際ニ適スルモノナリ故ニ此ノ如キ場合ニハ法律ハ地價ノ修正ヲ爲スコトヲ豫期セサルノミナラス之ヲ爲ササルヲ可トスルモノト謂ハサルヘカラス此ノ如ク二者ノ間法律上ノ取扱ヲ一ニセサルヲ以テ其效力ヲシテ全ク同一ナラシムルコトハ事情ノ許ササルモノアリ予ハ法律カ開拓地ニ墾下年期中許可スル所以ノモノハ一定ノ年間特ニ荒地ノ地價ニ依リテ其地租ヲ徵收セシメスル趣旨ニ出ナタルモノト信スルカ故ニ此趣旨ヨリ推及シテ異動ノ場合ニ於テハ左ノ如ク決スヘキモノナリト爲スモノナリ

1. 開拓墾下年期中ハ地目變換又ハ地類變換ヲ爲ス其地價ヲ修正セズ常ニ

録下年期明ノトキニ於テ其當時ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スルハキモノトス
2 開拓録下年期中荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ録下年期ハ免租年期ト併ヒ行ハルモノニシテ若シ免租年期ニテ録下年期ノ滿了前終了スルトキハ免租年期明ノトキ原地價ニ復シ録下年期明ノトキ地價ヲ修正スル若シ録下年期ニシテ免租年期ノ滿了前終了スルトキハ録下年期明ノトキ原地價ニ依リ近傍同地目ニ比準シテ地價ヲ修正シ免租年期明ノトキ原地目ニ復シタルトキハ其修正地價ニ依リ地租ヲ徵收シ原地目ニ復セス他ノ地目ト爲リタルトキハ其現況ニ依リ修正地價ニ對シ更ニ之ヲ修正シテ適用スルキモノトス
(下) 地價据置年期中地目變換又ハ地類變換ヲ爲シ若シ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキ此場合ニ開シテモ亦法令中特ニ規定シタルモノナレト雖モ地目變換後五年以内ニ土地ノ異動ヲ爲セタル場合ニ付キ地租條例施行規則ニ規定スル所ハ正ニ此場合ニ準用セラレ得ルコト何等ノ疑ヲ容レザルナリ
二 地價ヲ修正スル方法 五カヤヘキハ一、地價ノ算定ニ依リ地價ヲ修正スル地價修正トハ土地ノ現況ニ應スル地價ヲ定メ之ヲ以テ從來ノ地價ニ代フルコ

廢絶家ヲ再興セント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス(戸
第一五五條)

一 廢絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名職業及ヒ本籍地

二 廢絶ノ原因及ヒ年月日

三 廢絶シタル家ト再興ヲ爲ス者ノ家トノ續柄 實家本家分家同家等ノ續柄ヲ記載スルヲ謂フ

四 再興ヲ爲ス者ノ戸主ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地

五 再興ヲ爲ス者ニ隨ヒテ其家ニ入ルヘキ者ノ名出生ノ年月日及ヒ職業

戸籍法ニハ明文ナキモ再興ヲ爲ス者ト之ニ隨ヒテ其家ニ入ルヘキ者トノ續柄ヲ屆書ニ記載シ又親族關係ヲモ屆書ニ記載スルヲ相當トス

最終ノ戸主トノ親族關係ヲモ屆書ニ記載スルヲ相當トス

(二) 通則 分家ノ届出人又一聯(一)ノ場合ニ於ケル廢絶家再興ノ届出人ハ屆書ニ戸主ノ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ戸主ヲシテ屆書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス(戸第一五六條第一項)

分家ヲ爲ス者又ハ前(三)ノ第一ノ場合ニ於テ廢絶家ヲ再興スル者カ未成年者ナルトハ其ノ屆書ニ親權ヲ行ス者又ハ後廢人ハ同意ハ證書ヲ添ヘ又ハ此等ノ者又シテ屆書ニ同意ハ旨ヲ附記シ署名捺印セシムルモノトモ要ス(同條第二項) 分家又ハ廢絶家再興ノ届出ハ既ニ效力ヲ生ズル事實ニ關スル届出ニアラサルカ故ニ戸籍法第四十六條ノ適用ハ其ノ場合ニ適シ又ハ再興又ハ廢絶ノ事實本節ノ届出ニ關スル戸籍吏ハ管轄ニ付テハ其ノ所段ニ決定スルカ故ニ(四)ニ通タルトモ其ニ依リテ其管轄定メルニ入ルベキ者ト看出テ其日數ヨリ算ス(注意) 分家ヲ爲シタル者ハ本家出氏ヲ稱ス日數算スル本條ニ準テ廢絶家ヲ再興シタル者ハ其廢絶シタル家ノ氏ヲ稱ス 其他ノ事由ニ因リ新ニ家ヲ立テ者ハ其任意ニ氏ヲ選ブモノトモ得ベシ但異説アリ

第十九節 國籍ノ得喪ニ關スル届出

(二)總論 本節ニ於テハ日本ノ國籍ヲ得喪ニ關スル届出ノ手續即チ戸籍法第

四章第十九節ノ規定ヲ説明スヘシ 國籍法ニ於テハ日本ノ國籍ヲ入カ國家ニ對シ絕對的服從關係ヲ有スルモノトシ其國ノ國籍ヲ有スト謂フ茲ニ絕對的服從關係トイフハ其國ニ潛在スル間ノミ其國ノ國權ニ服從スルニアラスシテ其國ノ内外ニ在ルヲ問ハズ其國ノ國權ニ服從スルモノト意義ス外國人ハ日本ニ在ル間ニ其我國ノ國權ニ服從シ日本人ハ日本ニ在ルト否トニ論ナク我國ノ國權ニ服從ス故ニ日本ノ國籍ヲ有スル者トシ日本入即チ是ナリ 外國人カ日本人ト爲ルコトヲ日本ノ國籍ノ取得ト謂ヒ日本人カ外國人ト爲ルコトヲ日本ノ國籍ノ喪失ト謂ヒ日本人カ外國人ト爲リタル後更ニ日本人ト爲ルコトヲ日本ノ國籍ノ回復ト謂フ 國籍法ニ於テハ日本ノ國籍ヲ取得スル日本入タルノ要件ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルヲ要ス(四)ハ憲法第十八條ノ規定スルトコロニシテ同條ニ基キ制定セラレタル法律ハ明治三十二年法律第十六號國籍法及ヒ明治三十一年法律第二十一號外人養子入夫法是ナリ日本ノ國籍ヲ取得喪失及ヒ回復ニ付テハ此兩法律ヲ參照スヘシ(四)ニ該ヘキ次ノ(三)及ヒ(三)ノ場合ニ在リテハ婚姻養子縁組又ハ私生子認知ノ届出ニ國籍法

關スル事項ヲ記載スルハ是リ(三)以下ノ場合ニ在リテハ國籍ハソノ關スル別段ノ届出ヲ爲スコトヲ要シ其届出ニ關スル戸籍吏シ警轉ニ付キテハ(四)ニ述ヘタルトコロニ從フコトヲ要ス

(三)外國人カ婚姻又ハ養子縁組ニ因リ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ日本ノ外務大臣ヲ爲シ又ハ内務大臣ヲ許可ヲ得テ外國人ヲ入英若シハ養子ト爲シタルトキハ其外國人ハ日本ノ國籍ヲ取得スルモノトス(國籍法第五條外人養子入夫法第一條)

外國人カ婚姻又ハ養子縁組ニ因リ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ婚姻又ハ縁組ノ届出人ハ其婚姻又ハ縁組ノ届書ニ國籍取得者ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第一五七條)

入夫婚姻又ハ養子縁組ノ場合ニ於テ前項ノ記載ヲ爲ス外其届書ニ内務大臣ノ許可書ノ添本ヲ添フルコトヲ要ス

(三)外國人カ認知ニ因リ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ外國人カ日本人タル父又ハ母ニ依リテ認知セラレタルトキハ國籍法第五條ニ依リ日本ノ國籍ヲ

取得ス但同法第六條ニ掲ケタル條件ヲ具備シタル場合ニ限リ

外國人カ認知ニ因リ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知者ハ私生子認知ノ届書ニ子ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要シ子ノ母カ外國人ナルトキハ母ノ國籍ヲモ記載スルコトヲ要ス(戸第一五八條)

(三)歸化 外國人ハ國籍法第七條以下ニ規定シタル條件ヲ具備スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ歸化ヲ爲スコトヲ得歸化トハ外國人カ其意思ニ基キテ日

本ノ國籍ヲ取得スルコトヲ謂フ(國籍法第五條)

歸化ヲ爲シタル者ハ歸化ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ内務大臣ノ許可書ノ添本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 歸化人ノ氏名出生ノ年月日職業住所及ヒ原國籍

二 父母ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ國籍

三 歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シタル者アルトキハ其名出生ノ年月日、

職業及ヒ其者ノ歸化人トシテ續柄集計表ニ記載スルモノトス

四 内務大臣カ許可ヲ爲シタル年月日及ヒ其要スル事項

歸化人ノ妻又ハ子カ歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得セザルトキハ其書ニ其事由ヲ記載スルモノトシテ要スル以上戸第一五九條

歸化ハ内務大臣ノ許可ニ因リ其效力ヲ生ス故ニ歸化ノ届出ハ既ニ效力ヲ發生シタル事項ニ關シ戸籍法上ノ義務トシテ爲ス届出ナリトス

(三) 國籍ノ喪失 日本人ハ國籍法第十八條乃至第二十四條ニ掲ケタル事由アルトキ(例ヘハ日本ノ女カ外國人ト婚姻ヲ爲シタルトキ)如シハ日本ノ國籍ヲ喪失ス

日本ノ國籍ヲ失フヘキ者ハ其國籍喪失前ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス(戸第一六〇條)

一 國籍ヲ喪失スヘキ原因

二 國籍ヲ喪失スヘキ期日ヲ豫メ知リ得ヘキトシテ其年月日 國籍喪失ノ

原因カ發生スヘキ日ヲ謂フ例ヘハ日本ノ女カ外國人ト婚姻ヲ爲シタルトキ

三 法定ノ推定家督相續人アルトキハ其名出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄

四 新ニ取得スヘキ國籍大體ノ指前モ得テ日本ノ國籍ヲ喪失スルモノトス

五 届出人ノ妻又ハ子カ其ニ國籍ヲ失フヘキトキハ其妻又ハ子ノ名出生ノ

年月日及ヒ職業國籍法第二一條參照

日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失前ニ右ノ届出ヲ爲スコト能ハザリシトキ

ハ國籍喪失後十日内ニ之ヲ爲スコトヲ得ス但國籍喪失者カ日本ニ住所モ居

所ヲモ有セザルトキハ此限ニ在ラス戸第一六一條

日本ノ國籍ヲ失スヘキ者カ滿十七年以上ノ男子タルトキハ國籍喪失ノ届出人ハ届書ニ其者カ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルコト又ハ之ニ服スル義務ナキコ

トノ證明書ヲ添フモノトシテ要ス

日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ官職ヲ帶テ居ル者タルトキハ國籍喪失ノ届出人ハ届

書ニ所屬長官ノ許可書ヲ添テ附コトヲ要ス(以上月第一六二條)又、届出ハ、

(注意) 戸籍法ニ第百六十二條ノ規定ヲ設ケタルハ國籍法第二十四條ノ規定
ハアルカ就テ、戸籍法ニ規定セラルル事項ニ關シ、戸籍法ニ規定セラルル事項ニ
日本ノ國籍ヲ失フヘキ者又ハ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ爲スヘキ届出ハ何レ
モ戸籍法上ノ義務トシテ之ヲ爲スヘキモノトス但日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ
爲スヘキ届出ニ付キテハ届出期間ノ定アルカ故ニ之ヲ怠リタルトキ、過料ニ
處セラレ、モ(戸第二一〇條)日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ爲スヘキ届出ニ付キテ
ハ届出期間ノ定ナキカ故ニ之ヲ怠リタルトキト雖モ制裁ナシ

(三) 國籍ノ回復 婚姻ニ因テ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ婚姻解消ノ後日本
ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得
(國籍法第二五條)

國籍法第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依テ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ日
本ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ
得但同法第十六條ニ掲ケタル者カ日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ハ此際ニ在ラズ

(同法第二六條)

日本ノ國籍ヲ回復シタル者ハ國籍回復ノ許可ヲ得タル日ヨリ十日内ニ左ノ諸
件ヲ具シ内務大臣ノ許可書ノ原本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス(戸第一六
三條)又、此項期間内ニ、

(一) 日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ビ年月日、
(二) 國籍回復前ニ有セシ國籍、日本ノ國籍ヲ回復スル前ニ有セシ最後ノ國
籍ヲ指ス故ニ例ヘハ日本ノ女カ婚姻ニ因リ英吉利ノ國籍ヲ取得シ更ニ英
吉利ノ國籍ヲ失ヒ佛蘭西ノ國籍ヲ取得シタル後日本ノ國籍ヲ回復シタル
場合ニ在リテハ佛蘭西ノ國籍ヲ有シタル旨ヲ記載スルコトヲ要スルモ英

吉利ノ國籍ヲ有シタル旨ヲ記載スルコトヲ要セス又、
(三) 國籍回復ニ付キ内務大臣ノ許可ヲ得タル年月日、
(四) 國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アルトキ
ハ其名出生ノ年月日職業及ビ其者ト國籍回復者トノ親屬ノ國籍回復者ト
共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復スル者ニ付キテハ國籍法第二十七

條ヲ參照スヘシ。又ハ之ニ關シテハ、國籍法第二十條ノ同復ハ内務大臣ノ許可ニ因リテ其效力ヲ生ズ而シテ右ノ届出ハ既ニ效力ヲ生シタル事項ニ關シ戸籍法上ノ義務トシテ爲スヘキ届出ナリ。蓋シテハイテ國籍回復者ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ回復者ト戸主トノ續柄ハ戸籍法第四章第一節通則第四十五條ノ規定ニ依リ届書ニ之ヲ記載セサルヘカラス。

第二十節 氏名及ヒ族稱ノ變更ニ關スル届出

(三)總論 本節ニ於テハ氏ノ復舊名ノ改稱及ヒ族稱ノ變更ニ關スル届出ノ手續即チ戸籍法第四章第二十節ノ規定ヲ説明スヘシ。然レモ本節ニ揭タル各種ノ届出ハ何レモ既ニ效力ヲ生シタル事項ニ關シ戸籍法上ノ義務トシテ法定期間内ニ爲スコトヲ要スル届出ニ屬ス而シテ其届出ニ關スル戸籍吏ノ管轄ニ付キタル點ニ違ヘタルトコロニ從フ。又ハ之ニ關シテハ、(三)氏ノ復舊及ヒ名ノ改稱ニ關スル届出、(四)氏ノ家ノ表示ニシテ名ハ人ノ表示ナリ。一ノ家ニハ一ノ氏アルコトヲ要シ一ノ人ニハ一ノ名アルコトヲ要ス。

(注意) 封建時代ニ在リテハ庶民階級ニハ氏ナキヲ通則トシ士以上ハ通稱ト名乗例ヘハ九郎ハ通稱ニシテ義經ハ名乗ナリト有スルヲ通則トシタリ然レトモ維新後明治三年九月十九日布告及ヒ明治五年五月第四百九十九號布告ヲ以テ凡テ家ニハ氏アルコトヲ要シ通稱名乗兩様用ヒ來レル者モ一名ニ限ルヘキコトトセリ。又ハ之ニ關シテハ、(一)氏ノ復舊名ノ改稱ト名トハ之ヲ改稱スルコトヲ禁ス但正當ノ事由アルトキハ氏ノ復舊名ノ改稱ニ限リ特ニ之ヲ許可ス。又ハ之ニ關シテハ、(二)氏ノ復舊トハ一旦氏ヲ變更シタル後更ニ前ノ氏ニ復スルヲ謂フ例ヘハ徳川時代ニ山田氏ヲ松平氏ニ變更シタル者カ山田氏ニ復舊スルトキノ如キ是ナリ家ニ變更アリタル爲メ氏ニ變更アル場合ハ之ヲ氏ノ改稱又ハ復舊ト謂ハス故ニ例ヘハ渡邊氏ヨリ婚姻ニ因リ坂田氏ニ入ルモ之ヲ氏ノ改稱ト謂ハス離婚ニ因リ坂田氏ヨリ渡邊氏ニ復歸スルモ之ヲ氏ノ復舊ト謂ハス要スルニ氏ノ改稱又ハ復舊トハ他ノ家ニ轉屬セシ爲メ其結果トシテ其入リタル家ノ氏ヲ稱スル場合ヲ指スニアラス家ニ變更ナクシテ任意ニ

氏ヲ變更スル場合ヲ謂フ。聯合ニ關スル變更ニ付テハ、聯合ノ名ノ改稱トハ例ヘハ權兵衛ト稱スル者カ八兵衛ト其名ヲ變更スルカ如キヲ謂フ。

(注意) 近隣ニ同氏名ノ者アルトキ等正當ノ事由アルトキハ氏ニ付キテハ戸主名ニ付キテハ本人ノ願出ニ因リ行政官廳ハ氏ヲ復舊又ハ名ノ改稱ヲ許可スルコトヲ得此許可ノ管轄官廳ハ地方長官ナラモ地方ニ依リタハ其事務ヲ郡長等ニ委任シタルアリ。

尙ホ氏名及ヒ其變更ニ付キテハ明治五年太政官布告第二百三十五號明治九年布告第五號等ヲ參照スヘシ。

氏ヲ復舊シ又ハ名ヲ改稱シタル者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ管轄官廳ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス(戸第一六四條)。

一 復舊又ハ改稱前ノ氏名ナリ。

二 復舊シタル氏又ハ改稱シタル名ナリ。

三 復舊又ハ改稱ノ原因及ヒ許可ノ年月日。

原因トハ許可ヲ願出ツルニ至

リタル事由ヲ謂フ

(三) 族稱ノ變更ニ關スル届出 族稱トハ華士族平民ノ稱號ナリ。

明治ノ初メ公卿諸侯ヲ華族ト爲シ大夫士卒郷士等ヲ士族ト爲シ農工商僧尼穢多非人等ヲ平民ト爲シタリ(明治二年六月十七日布告同年十二月二日布告明治四年八月二十九日布告等然レトモ華族ト士族ト平民トヲ指シテ族稱ト謂フハ戶籍法ニ始マル戶籍法實施以前ニ在リテハ族稱ヲ身分ト謂フヲ通例トシタリ)族稱ハ戸主ノミ之ヲ有シ家族ハ之ヲ有セタルヲ原則トス家族カ族稱ヲ有スルハ其者カ新ニ華族ニ列セラレタル場合ニ限ル。

(注意) (イ) 新ニ華族ニ列セラレタル場合ヲ除ク外家族ハ族稱ヲ有セタルモノナルコトハ明治二年六月十七日布告同年十二月二日布告等特ニ明治十七年七月宮内省達華族令第六條ニ徴シ明白ナリ。

(ロ) 華族戸主ノ家ニ在ル家族ハ華族ニアラス但其家族中祖父母、父母、妻、嫡長子孫及ヒ嫡長子孫ノ妻ニ限リ華族ト同一ノ禮遇ヲ受ク其他ノ家族ハ華族ト同一ノ禮遇ヲ受クルコトナシ(華族令第六條)。

士族戸主若クハ平民戸主ノ家ニ在ル家族モ亦士族若クハ平民ニアラス
(ハ) 山尾庸三花房義實ノ兩氏ハ家族ニシテ華族ニ列セラレタル者ナリ
士族戸主又ハ平民戸主ノ家ニ在ル家族カ新ニ華族ニ列セラレタルトキト雖
之カ爲メ戸主ハ華族ト爲ルコトナシ

戸主カ死亡シ又ハ隱居其他ノ事由ニ因リテ其地位ヲ去リタルトキ(但華族令第
七條ニ依リ華族戸主ハ生存中其地位ヲ去ルコトヲ得ズ)ハ家督相續人ハ其族稱
ヲ承繼ス但華族ノ族稱ニ限リ家督相續人カ之ヲ承繼スルコトヲ得ナル場合ア
リ其詳細ニ至リテハ華族令第四條第十四條ヲ參照スヘシ
(注意) 前戸主カ士族又ハ平民ナリシ場合ニ於テ家督相續人カ華族ニ列セラ
レタル家族ナルトキハ其者ハ前戸主ノ族稱ヲ承繼スルコトナク依然トシテ
華族ノ族稱ヲ保有スヘキモノナリト信ス
一 刑ノ宣告ニ因リ公權ヲ剝奪セラレタルトキ刑法第三一條第三號
二 監視ニ付セラルヘキ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ華族タルノ體面

汚辱スル失行アリタルトキハ宮内大臣ハ華族令第十八條ノ手續ヲ經テ
其族稱ヲ奪フ華族令第一三條第一六條第一八條
三 華族ノ品位ヲ保フコト能ハサル者カ其族稱ヲ辭セシト欲シ之ヲ願出テ
附屬タルトキハ宮内大臣ハ華族令第十八條ノ手續ヲ經テ之ヲ許可ス華族令第
一五條第一八條
四 官華族タル戸主カ其地位ヲ去リタルトキ又ハ華族ニ列セラレタル家族カ
日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ

五 華族ニ列セラレタル家族カ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキ
士族ノ族稱ヲ有スル者ハ左ノ場合ニ於テ其族稱ヲ失フ

一 刑ノ宣告ニ因リ公權ヲ剝奪セラレタルトキ刑法第三一條第三號

二 新ニ華族ニ列セラレタルトキ

三 士族ノ族稱ヲ辭シタルトキ
四 戸主タル地位ヲ去リタルトキ 但家督相續人ハ其族稱ヲ承繼ス

平民ノ族稱ヲ有スル者ハ左ノ場合ニ於テ其族稱ヲ失フ

一、新ニ華士族ニ列セラレタルトキ、其族稱ヲ承繼ス
二、戸主タル地位ヲ去リタルトキ、但家督相續人ハ其族稱ヲ承繼ス
華族又ハ士族タル戸主カ戸主タル地位ヲ去ラスシテ其族稱ヲ失ヒタルトキハ
平民ト爲リ新ニ一家ヲ立テタル者モ亦平民ト爲ル但華族ニ列セラレタル家族
カ新ニ一家ヲ立テタルトキハ平民ト爲ラス依然トシテ華族タル事ニ關シ
(注意) 廢絶家ヲ再興シタル者ハ廢絶家ノ最終ノ戸主ノ有シタル華族其他ノ
族稱ヲ承繼スルコトヲ得ス分家其他ノ事由ニ因リ新ニ一家ヲ立テタル場合ト
同シタ平民ト爲ル

刑ノ宣言ニ因リ華族又ハ士族タル族稱ヲ失ヒタル者アルトキ(刑ノ宣言ニ因リ
公權ヲ剝奪セラレタル場合ヲ謂フ)ハ裁判所ハ其者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ其旨ヲ
報告スルコトヲ要ス(第一六六條) 又ハ戸主タル地位ヲ去リタルニ因リ華士
族ノ族稱ヲ失ヒ家督相續人カ其族稱ヲ承繼スル場合又ハ前項ノ場合ハ此限
ニ在ラズ又ハ新ニ華族ニ列セラレタルトキハ十日以内左ノ諸條件ヲ具シ管轄官

其説ヲ變スルコトモアラシメ、其族稱ヲ變更スルハ、戸籍法ノ規定ニ依リ、戸籍吏ニ其旨ヲ報告スルコトヲ要ス(第一六六條) 又ハ戸主タル地位ヲ去リタルニ因リ華士族ノ族稱ヲ失ヒ家督相續人カ其族稱ヲ承繼スル場合又ハ前項ノ場合ハ此限ニ在ラズ又ハ新ニ華族ニ列セラレタルトキハ十日以内左ノ諸條件ヲ具シ管轄官
其説ヲ變スルコトモアラシメ、其族稱ヲ變更スルハ、戸籍法ノ規定ニ依リ、戸籍吏ニ其旨ヲ報告スルコトヲ要ス(第一六六條) 又ハ戸主タル地位ヲ去リタルニ因リ華士族ノ族稱ヲ失ヒ家督相續人カ其族稱ヲ承繼スル場合又ハ前項ノ場合ハ此限ニ在ラズ又ハ新ニ華族ニ列セラレタルトキハ十日以内左ノ諸條件ヲ具シ管轄官
以上講述シタル如ク非訟事件ハ本質ハ今尙未定ナリ隨テ立法者モ明確ニ非訟事件ノ觀念ヲ一定シ之ニ關スル法律ヲ制定シタルモノニ非サルヤ勿論ニシテ且實際上如何ナル學說ヲ採用スルモ別斷差支ナク換言スレバ非訟事件ノ本質如何ノ問題ハ世ノ所謂實際家ニハ格別不便ヲ感スルモノトナカルヘシ故ニ實際ノ取扱上ニ於テハ此兩事件ノ區別ヲ其本質ニ求メズ單ニ形式即チ手續上ノ區別ニ過キストシテ各法律ノ規定ニ依リ其便否ヲ考ヘ之ヲ定ムルモ差シタル間違モナカルヘシ前述ノ訴訟事件ニ非サルモノハ非訟事件ナリトシテ我國ニ於ケル假名遺教授法ノ如ク實際上此區別ヲ知ルニ最モ撓徑ナル方法ナリト信ス蓋シ訴訟事件ノ本質ハ訴訟事件ニ比スレバ知リ易キモノナリ非訟事件余輩ノ講述セントスル非訟事件手續法ハ非訟事件全體ニ關スルモノニ非スシテ裁判所ノ管轄ニ屬スル非訟事件中ノ一部ニ過キズ(非訟事件手續法第一條參照)

第二章 非訟事件手續法ノ概要

第二章 非訟事件手續法ノ沿革

非訟事件手續法ハ非訟事件ニ關スル法律中最モ重要ナルモノナリ。然レモ其ノ法律
 商法ノ助法トシテ其規定ニ運用ヲ究ムラハ民事訴訟法ト相並ニテ國家ノ私
 法事務ノ目的ヲ達セシムルモノナリ。故ニ民法商法ニシテ存在キスレバ非訟事
 件手續法モ亦其生存能力ナク完全ナク非訟事件手續法ハ實ニ完全ナル民法商
 法ノ完成セル後タラサルヘカラス我國ニ於テモ民法商法ノ發布以前ニハ所謂
 非訟事件手續法ナルモノナク唯三四ノ非訟事件ニ關スル單行法アリタルヲミ
 然ルニ明治二十三年ニ至リ民法商法ノ成典公布セラレタルヨリシテ茲ニ非訟
 事件手續法制定ノ必要ヲ感シ裁判上代位法財產委棄法増價脱賣法ノ如キ數多
 ノ非訟事件ニ關スル法律ニ共ニ同年十月法律第九十五號ヲ以テ非訟事件手續
 法公布セラレ而シテ民法商法ト共ニ同年十一月一日ヨリ施行セラレルコ
 トト爲レリ實ニ我國ニ於テ制定セラレタル非訟事件手續法ハ嚆矢ナリトス
 同法ハ之ヲ五章ニ分テ當時ノ民法ノ規定ニ從ヒ區裁判所ノ認可又ハ許可ヲ求

ムル申請手續失踪ノ推定宣告又ハ財産占有其他ノ請求手續相續ノ限定受諾ニ
 關スル手續國ニ屬スル相續財産領收ノ手續財産ノ封印及ヒ目錄調製ノ手續等
 ヲ規定セリ然ルニ民法商法ノ公布セラレルヤ之ニ對スル非難ノ聲頗ル高ク茲
 ニ於テカ彼ノ有名ナル法典派ト非法典派(內實佛法派ト英法派)ノ論争ヲ激成シ
 次ヲ民法ノ實施延期及ヒ民法商法ノ修正ノ議起リ結局延期説勝ヲ制シ同二十
 五年ニ召集セラレタル帝國議會ノ議決ヲ經テ同年十一月民法並ニ商法修正ノ
 爲メ同二十九年十二月三十一日マテ其施行ヲ延期スル旨ヲ公布セラレタリ從
 テ右法律第九十五號ノ非訟事件手續法モ亦同時ニ延期セラレルニ至レリ超エ
 テ翌二十六年三月時ノ政府ハ右延期ノ旨趣ニ基キ法典調查會ヲ設ケ民法商法
 其他ノ法律ノ修正制定ヲ司ラシメ同二十八年ノ末ニ至リ民法第一編乃至第三
 編ノ修正案先ツ成リ帝國議會ノ議決ヲ經テ同二十九年四月法律第八十九號ヲ
 以テ公布アリタリ又民法ノ殘部タル第四編及ヒ第五編ハ同三十一年六月法律
 第六號ヲ以テ公布セラレ而シテ同年七月十六日ヨリ舊商法ト共ニ施行セラレ
 タリ隨テ民法及ヒ商法ノ修正ニ伴ヒ法典調查會ニ於テ非訟事件手續法ニ至テ

部修正ヲ加ヘ明治三十一年六月法律第十四號ヲ以テ之ヲ公布シ翌三十二年三月新商法ノ公布セラルルヤ同ク非訟事件手続法ノ一部則チ主トシテ商法ニ關スル部分ヲ修正シ新商法ト同時ニ非訟事件手続法中改正法律トシテ公布セラレ現行非訟事件手続法是ナリ、
我非訟事件手続法ノ母法タル獨逸非訟事件手続法ハ西曆千八百九十八年五月公布アリタルモノニシテ民法及ヒ輕商法ト共ニ同千九百年一月一日ヨリ施行セラレタルモノナリ同國ニ於テモ民法發布以前ハ現今ノ如キ完全ナル非訟事件手続法ナルモノナク我國ニ於ケルカ如ク各聯邦ニ於テ唯非訟事件ニ關スル單行法律アリタルノミ、
獨逸非訟事件手続法ハ十一章二百條ヨリ成リ其規定ノ内容左ノ如シ、
第一章 總則 (第一條乃至第三十四條)
第二章 後見事件 (第三十三條乃至第六十四條)
第三章 養子縁組 (第六十五條乃至第六十八條)
第四章 身分 (第六十九條乃至第七十一條)

第五章 相続財産及ヒ分割事件 (第七十二條乃至第九十九條)
第六章 船舶債權 (第一百條乃至第二百二十四條)
第七章 商事事件 (第二百二十五條乃至第二百五十八條)
第八章 社團事件及ヒ夫婦財産制簿 (第二百五十九條乃至第二百六十二條)
第九章 公示宣誓物ノ検査並ニ保存及ヒ買物賣却 (第二百六十三條乃至第二百六十六條)
第十章 裁判上及ヒ公證上ノ證書 (第二百六十七條乃至第二百八十四條)
第十一章 最終ノ規定 (第二百八十五條乃至第二百九十二條)

第三章 非訟事件手続法ノ法律學上ニ於ケル地位

法律ノ定義ニ付テハ異説紛未タ歸一スル所ナシト雖トモ現行非訟事件手続法カ法律ナルコトハ敢テ疑ヲ容レサル所ナルヘシ若シ余輩ノ信スル如ク法律トハ人類共同生存ノ要件ニシテ國家ナル團體ノ力ニ依リテ強制セララル規則ナリト定義スレハ非訟事件手続法モ固ヨリ一ノ法律ニシテ他ノ民法刑法民事

訴訟法等ノ諸法律ト相並ヒテ獨立ノ地位ヲ有スルモノナルヲ明カシ然レトモ非訟事件手續法カ法律上果シテ如何ナル地位ヲ有スルヤニ付テハ法律ノ分類ノ異ナルニ從ヒ亦異ナラサルヲ得ヌ然レモ余輩ハ此ニ就テ異説ヲ持テ現行非訟事件手續法カ成文法ナルコトハ説明スル必要ナキヲ以テ直チ異説最モ多キ公法私法ノ孰レニ屬スルヤノ點ニ付キ少シク之ヲ講述スヘシ公法私法ノ區別ハ學者ノ頗ル其説明ニ困ム問題ニシテ從テ異論ノ最モ多ク存スル所ナリ或ハ公法私法ノ區別ナシト云ヒ或ハ法ハ悉ク公法ナリト稱シ或ハ法ハ總テ私法ナリト論スル者アリ又此區別アリトスル學者中ニモ或ハ目的ニ依リ或ハ性質ニ依リ或ハ法律關係ノ主體ニ依リ之ヲ區別セントスル者アリ異説夫レ斯ノ如ク多キヲ以テ直チニ余輩ノ信スル定義ヲ舉クレハ公法トハ國家團體ノ力ヲ直接ニ規定シタルモノニシテ私法トハ私人相互ノ間ニ存スル力ヲ直接ニ規定シタルモノナリトス然レトモ非訟事件手續法ハ私權ノ明示及ヒ實行ヲ目的トスルモノニシテ國家ノ私法事務ノ一ニシテ國家ノ力ニ依リ其目的ヲ達スルモノナリ故ニ國家團

體ノ力ヲ直接ニ規定スルモノナリヲ以テ公法ナリトス又國家カ私權ノ明示及ヒ實行ニ付テハ其機關タル裁判所ヲシテ之ニ關與セシムル必要ナル場合ニハ裁判權ノ行使ヲ爲サシム而シテ裁判權ハ國家團體ノ力カナルヲ以テ此點ヨリ論スルモ裁判權ノ直接ノ活動ヲ規定スル非訟事件手續法ノ公法ナルヲ明カナリ英法學者ハ法ヲ主法ト助法トニ區分シ權利義務ヲ規定シタル法律ヲ主法ト云ヒ主法ノ運用ニ關スル手續ヲ規定スル法律ヲ助法ナリト稱セリ獨逸學者ハ法ヲ實質法ト形式法トニ區別シ權利ノ實質ヲ定ムル法律ヲ實質法ト説キ權利ノ形式ヲ定ムル法律ヲ形式法ト云ヘリ又モ獨逸學者ハ非訟事件手續法ニ關スル此區分法ニ從ヘハ非訟事件手續法ハ主法タル民法商法ヲ運用スル手續ヲ規定スルモノナルヲ以テ助法ニシテ且同法ハ權利ノ實質ヲ定ムルモノニ非スシテ單ニ權利ノ形式ヲ定ムルモノナレハ形式法ナリトス

以上兩種ノ區分法ノ當否ニ付テハ余輩頗ル疑問ヲ抱タモノナリ假ニ此區分法ヲ正當ナリトスレバ余輩ハ非訟事件手續法ハ主法ナリ實質法ナリト論セシム欲ス然レトモ本譯義ニ於テ斯ノ如キ法律性質學上ノ大問題ヲ解決セズトスルヤ

其處ニ非スト信レ茲ニハ唯普通ノ學說ヲ述フルニ止ル尙委細ハ余輩ノ民事訴訟法講義緒論第三章及第五章ヲ參照セラレタシ民事訴訟法ニ關スル余輩ノ看念ハ幾分亦非訟事件手続法ニ從之ヲ單用スルコトヲ得ヘシ

第四章 非訟事件手続法ノ適用ノ範圍

非訟事件手続法ハ其名稱ニ反シテ非訟事件ニ關スル法律全般ヲ網羅シタルモノニ非ス否同法ハ民法商法ヲ運用スル手續法ナリト稱スルモ民事商事ニ關スル非訟事件總體ヲ包括シタルモノニモ非サルナリ茲ニ實質的ニ非訟事件ニ關スル非訟事件手続法ノ規定ハ之ヲ二大部分ニ區別スルコトヲ得其一部ハ第一編ノ規定他ノ一部ハ第二編第三編ノ規定是ナリ前者ノ適用ノ範圍ハ單ニ非訟事件手續法ノ總則タルニ止マラス特別ノ規定ナキ限りハ裁判所ノ管轄ニ屬スル非訟事件全體ニ及フヘキモノタリ例之就賣法ノ如キ不動產登記法ノ如キ戶籍法ノ如キ裁判所ノ管轄ニ屬セシメタル非訟事件ニシテ裁判所ノ裁判ヲ爲スヘキモノハ皆本法第一編ノ規定ヲ適用スルモノトス而シテ後者ハ民事商事ニ關

係觸査定ノ結果トシテ既ニ與ヘタル特許ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルトキハ其特許年限ハ前ノ特許ノ登錄ノ日ヨリ起算ス是發明者ニハ甚不利益ナリト雖特許年限ノ長キハ公益ヲ害スルモノナルヲ以テ同一ノ發明カ特許ヲ得タル年限ハ之ヲ通算スルコトセルナリ蓋シ公益ノ點ヨリ見ルトキハ前特許ト後特許トノ區別アラサレハナリ茲ニ第六十條內ニ規定スルハ三 係觸査定及拒絕査定ニ不服アル者ハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ不服理由書ヲ差出シテ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ前査定ニ干與セタル審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシム(第二十三條) 再審査ハ審査ノ再行ナリ初審査ト手續ニ於テ異ナル所ナク又其效力ニ於テ異ナル所ナシ審査官ハ不服理由書ニ就キテ其主張ノ當否ヲ審査スルノミナラス初審査ト等シク實體的要件ノ全部ニ互リテ審査ヲ爲スナリ故ニ或ハ初査定ニ於テ認メタル事由ヲ否認シテ却テ他ノ點ヲ以テ拒絕又ハ係觸ノ査定ヲ是認スルコトアリ又拒絕査定ニ對スル再審査ニ於テ係觸査定ヲ爲ス場合アリ係觸査

定ニ對スル再審査ニ於テ却テ拒絕査定ヲ爲ス場合モアルヘシ(第二十三條第三項ニ審査官其ノ不服理由ヲ不當ト査定シタルトキ云云)アルハ多少語弊アリ蓋シ審査官ハ其不服理由ハ正當ト認ムルニ拘ラス更ニ他ノ點ヲ以テ拒絕又ハ抵觸ノ査定ヲ爲スコトアルナリ何故ニ此ノ如キ制度ヲ執リタルヤト云フモ若シ再審査ヲ以テ初査定ニ對スル不服理由ニ付テノミ審査スルモノトセンカ初査定ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ第一審ニ差戻シテ更ニ初査定ヲ爲サシムルヲ要シ其手續甚タ煩雜ト爲ルヲ免カレサルヲ以テナリ(第二十三條第二項ニ再審査ノ結果特許ヲ與フヘシトシ査定アリタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登錄シテ特許證ヲ下付スル)ト初査定ノ場合ト同シ又拒絕又ハ抵觸ノ査定アリタルトキハ關係人ハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三節 審判

注意 本節ニ於テハ單ニ再査定ニ不服アリテ審判ヲ請求スル場合ノ筋途ヲ

略述スルニ止マリ一般ノ審判ニ關シテハ後章ニ於テ之ヲ詳説スヘシ
特許出願者ニシテ拒絕再査定又ハ抵觸再査定ヲ受ケタルトキ若クハ發明完成前後査定ニ於テ特許ヲ拒絕セラレタルトキハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ於テ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得(第二十八條)
審判官ハ不服理由ニ就テノミ審判ス審判官ノ審決ニ於テ不服理由ヲ正當ト認メタルトキハ出願ハ更ニ審査官ヘ差戻シテ審査ヲ爲サシム若シ審決ニ於テ不服理由ヲ不當ト認メタルトキハ特許ノ拒絕ハ確定ス

第四章 特許權ノ效力

第一節 特許權ノ内容

一 特許ノ效力ニ關シテハ嚴格ナル屬地主義行ハルルヲ以テ一國ニ於ケル特許ノ效力ハ外國ニ於ケル發明ノ利用ヲ妨クルコトヲ得ス是レ現今總テノ特許立法カ例外ナシニ執ル所ノ主義ナリ故ニ數箇國內ニ於テ發明ヲ專用セント欲セハ數箇國ニ於テ各別ニ特許ヲ受ケサルベカラズ而シテ各國ノ特許立法區區

ナルヲ以テ其特許ノ效力又一様ナラス又數箇國ニ於テ特許ヲ受ケタル場合ト雖各特許ノ效力カ其一國內ニ限ラルル結果甲國ニ於テ發明者カ製造シタル物品ヲ發明者ノ意思ニ反シテ乙國(此國ニ於テモ特許ヲ受ケタル場合ニ輸入シタル場合ニハ乙國ニ於テ特許權ノ侵害トナルコトアルナリ)國ニ於テモ特許權ハ單一ニシテ不可分ナリ然レトモ其作用ヨリ觀察スルトキハ種種ノ態樣アリ特許法第一條第二項ニ曰ク「物品ノ發明ニ係ル特許ハ特許ヲ受ケタル者ニ限リ其ノ發明ノ物品ヲ製作使用販賣若ハ擴布スルノ權利ヲ有セシム又其第三項ニ曰ク「方法ノ發明ニ係ル特許ヲ受ケタル者ニ限リ之ヲ使用若ハ擴布スルノ權利ヲ有セシム但其ノ特許ノ效力ハ同一方法ニ依リ製作セラレタル物品ニ及フモノトス」ト乃チ特許權ハ物品ノ發明ニ在リテハ其物品ヲ製作、使用販賣若クハ擴布スル專權ニシテ方法ノ發明ニ在リテハ其方法及其方法ニ因リ製作セラレタル物品ヲ使用若クハ擴布スル專權ナリ(日本特許法第六十條)内(一)製作トハ物品ヲ作成スル行爲ニシテ方法ノ發明ニ關シテハ適用ナキコト勿論ナリ特許權者カ製作ノ專權ヲ有スル結果他人カ其物品ヲ製作シタルトキハ

未タ其物品ヲ使用又ハ擴布セザルモ特許權ノ侵害ト爲ルナリ又其物品ヲ適法ニ使用又ハ擴布スル目的ヲ以テ例ヘハ特許年限満了後使用スル目的ヲ以テ又ハ外國ニテ擴布スル目的ヲ以テ之ヲ製作セル場合ト雖特許權ノ侵害トナルナリ(二)使用トハ物品ノ發明ニ在リテハ其物品ノ利用ニシテ方法ノ發明ニ在リテハ其方法ノ應用ナリ使用カ特許權ノ内容ニ屬スル結果ハ假令其物品ノ製作カ特許權ノ侵害ト爲ラザリシ場合ト雖其物品ヲ使用スルトキハ特許權ノ侵害トナルナリ例之ハ特許ニ係ル物品ヲ外國ニ於テ製作スルハ特許權ノ侵害ト爲ラスト雖其物品ヲ內國ニ持來リテ使用スルトキハ特許權ノ侵害ト爲ルナリ(三)擴布トハ他人ヲシテ發明ノ目的物ヲ利用シ得ヘカラシムル諸般ノ行爲ヲ總稱シタル語ニシテ洋語ノ「サーキュレーション」又ハ「フェルケール」ニ直クト云フ義ト等シ乃チ譲渡ハ勿論貸付廣告陳列店舗又ハ博覽會場共進會場等ノ等皆之ニ屬ス販賣ハ無論擴布ノ一種ナリ法文ニ特ニ販賣ナル語ヲ加ヘタルハ其最モ顯著ナル例ナルカ爲ナルヘシ

漢布ナル行爲ノ相對行爲例ヘハ買價等ノ行爲ハ漢布ナル語中ニ含マレス從テ
 專用權ノ作用ニ屬セサルヲ以テ他人カ之ヲ爲スモ未タ特許ノ侵害ト云フヘカ
 ラス之ヲ使用スルニ至リテ始メテ特許權ノ侵害トナルナリ
 三 物品ノ發明ト方法ノ發明トニ於テ特許ノ效力ニ差違アルハ自然ノ事理ナ
 リ即チ方法ニハ製造販賣等ノ場合ナシ又方法ノ發明ニ特許ヲ得タル場合ニ於
 テハ其方法ヲ用キテ作出スル所ノ物品ハ必スシモ發明ノ目的物ニ非サルヲ以
 テ特許ノ效力ハ其物品ニ及ホササルヘキ道理ナリ恰モ物品ノ發明ニ於テ特許
 ノ效力ハ其製法ニ及ハサルカ如シ然ルニ故ラニ方法ノ特許ノ效力ヲ其方法ヲ
 用キテ製出シタル物品ニ及ホサシメタルモノハ新クスルニ非スンハ方法ノ發
 明ノ保護十分ナラサルヲ以テナリ例ヘハ外國ニ於テ此發明ノ方法ヲ使用シテ
 盛ニ物品ヲ製造シ之ヲ内地ニ輸入スルトセハ内地ニ於ケル方法ノ特許ハ其利
 益ヲ減殺セラルルコト甚シカルヘケレハナリ
 四 特許權者ハ製作、使用、漢布ノ專權ヲ有スルヲ以テ吾人ハ假令特許品ヲ正當
 ニ取得スルモ之ヲ使用スルコトヲ得ス又之ヲ他ニ讓渡スルコトヲ得サルヘキ

ナリ然ルニ吾人カ平生特許品ヲ取得スルトキハ平氣ニテ之ヲ使用シ又ハ之ヲ
 他人ニ讓渡スルナリ是レ果シテ特許權ノ侵害トナルヘキヤ然ラス特許權者カ
 其製造品ヲ漢布シタルトキハ反對ノ意思ヲ推測シ得ル場合ノ外ハ其製品ノ取
 得者ニ之ヲ使用シ又ハ更ニ之ヲ漢布スルコトヲ許容(ライセンズ)シタルモノ
 ト見サルヘカラス乃チ吾人カ商店ヨリ買來レル特許品ヲ使用シ又ハ之ヲ更ニ
 他ニ讓渡シ貸付ケ其他漢布ノ所爲ヲ爲スハ皆此特許權者ノ許容ニ基クモノナ
 リ若シ特許權者ノ許容ヲ推定スルコトヲ得タル場合ニ在リテハ特許權ノ使用
 又ハ漢布ハ特許權ノ侵害トナルヘシ
 五 獨、埃其他多數ノ新立法例ニ依レハ特許權者ハ營業的ニ製作、使用、漢布等ノ
 行爲ヲ爲ス專權ヲ有スルノミ故ニ營業トシテ又ハ營業ノ爲メニ此等ノ行爲ヲ
 爲スニ非サレハ特許權ノ侵害ト爲ラサルナリ例ヘハ自家用ノ爲メニ製作シテ
 使用シ又ハ學術研究ノ爲メニ使用スルモ差支ナキナリ然ルニ我特許法ニ於テ
 ハ營業ト否トヲ問ハス一切ノ製作、使用、漢布ノ行爲ヲ禁スルナリ
 注意 營業ニ係ルト否ルト問ハス一切ノ製作、使用、漢布ノ行爲ニ關シ特許權

者カ専權ヲ有スルノ結果ハ大ニ注意ヲ要ス自家用ノ爲メニスルモノニ在
リテハ假令營業ノ爲メニ非ネトモ亦自家生計ノ利益ノ爲メニスルモノナ
ルヲ以テ之ヲ特許權者ノ專占ニ歸セシムルモ差支ナシト雖彼學術研究ノ
爲メニスル使用製作等ヲモ他人ニ禁制スル必要アリヤ假リニ之カ特許權
者ノ利益ニ反スルトスルモ學術研究ノ爲メニスル此等ノ行爲ヲ阻遏スル
ハ工藝教育上ノ障害ト爲ラサルヘキヤ特ニ彼ノ擴布ナル文字ノ意義甚タ
廣汎ニシテ公衆ニ對シテ説明スルカ如キ行爲モ含ムト解釋スル者アルヲ
以テ此等ノ行爲ヲ絕對ニ專占セシムルハ或ハ弊害ナシト云フヘカラス
六 發明ニシテ公益ノ爲メ普及ヲ要スルカ又ハ軍事上必要ナルカ若クハ秘密
ヲ要スル場合ニ於テハ特許局長ハ特許ニ制限ヲ付スルコトヲ得特許局長ハ自
ラ必要ト認メタルトキハ何時ニテモ此制限ヲ付スルコトヲ得又主務官廳ノ請
求アルタル場合ニハ之ニ因リテ制限ヲ付セサルヘカラス特許ヲ制限シタルト
キハ政府ハ相當ノ報酬ヲ特許出願者又ハ特許證主ニ與フルナリ(第十六條)

報 載

○府縣制第六條ニ所謂請負ノ意義 府縣制第六條第九項ノ規定ニ依レハ府
縣ノ爲メ請負ヲ爲ス者又ハ府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其府縣ノ府縣
會議員ノ被選舉權ヲ有セサルモノトス本條ニ所謂請負ノ意義如何今之ヲ民法
ノ規定ニ徴スルニ請負トハ當事者ノ一方カ或ハ仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相
方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フル契約ヲ謂フ(民法第六三二條)府縣
制第六條ニ所謂請負モ亦國法上ノ解釋トシテ民法ニ定義セル請負ト同一ニ解
釋スヘキモノナリトノ論ヲ容ルルノ餘地ナキニ非ス然ルニ行政裁判所ハ法律
ノ精神上ヨリ頗ル廣キ解釋ヲ採リ判決シテ曰ク府縣制第六條第九項ニ所謂請
負ハ廣義ニシテ普通請負ト稱スルモノハ總テ之ニ包含スルモノト解釋セサル
ヘカラス何トナレハ此規定ヲ設クルハ議事ノ公平ヲ保全シカ爲メ利害關係者
ヲシテ之ニ參與セシメタルニ在レハナリ而シテ本件金庫事務取扱ノ如キハ舊
來ノ慣習ニ依リ普通請負ト稱スルモノナレハ云云ト(行政裁判所明治三十九年
第二十二號判決)

二十五月明治三十六年五月

○議員候補者氏名ノ誤記ト投票ノ效力

ノ氏名ヲ誤リテ自己並ニ候補者ノ落膽ヲ招クモト往往聞ク所ナルカ行政裁判所ハ被選舉人中他ニ類似ノ氏名ヲ冒ス者ナシトノ理由ニ據リ長崎縣參事會カ左ノ如キ投票ヲ以テ菅富次郎ナル者ノ得票ナリト認メタルヲ是認セラレタリ

(行政裁判所明治三十五年第三百六十六號會審員富澤ノ效力三編ス)

菅富次郎 菅富次郎 菅富次郎 菅富次郎 菅富次郎

○商品ノ普通名稱ノ意義

商標法第二條ニ依レハ商品ノ普通名稱ハ商標トシテ登録ヲ受クルコト能ハサルモノトス其所謂普通名稱トハ如何之ニ付キ大審院ノ解釋スル所ヲ見ルニ曰ク商標法第二條第六號ニ所謂商品ノ普通名稱トハ帝國内一般普通ニ指稱セルモノニ止マラス帝國内或一地方ニ於テ普通指稱セルモノヲモ之ヲ包含スルモノト解釋スルヲ相當トス如何トナレハ第二條第六號ニハ商品ノ普通名稱ト掲ケアルノミナレハ立法ノ旨趣ハ上告人所論ノ如ク帝國内一般ノ普通名稱ニ限レルモノト解スルヲ得サルノミナラス凡ソ商品

普通ノ名稱ハ商品其物若クハ其物ノ性質ヲ表示セルモノナル可シト雖モ幾多ノ商品中或ル地方ニミ產出シ其地方ニ普通ノ名稱存スルモ他ノ地方ニ產出セス其名稱ノ存セサル所アリ又ハ其地方ニ因リ物若クハ其物ノ性質ヲ表示セル普通ノ名稱ヲ異ニスル所ナキニアラス故ニ必ラスシモ普通ノ名稱ハ帝國一般ニ行ハル可キモノニアラス然ルニ若シ一地方ニ普通ニ行ハル名稱ハ第二條第六號ノ規定ニ包含セサルモノトセハ上告代理人モ一説トシテ認ムル如ク其地方ニ於テ一人普通ノ名稱ヲ登錄スレハ他ノ多數ノ同業者ノ權利ヲ害スルニ至ルヘシ是レニ由テ之ヲ見ルモ商品ノ普通名稱ハ帝國内一般ナルト一地方ナルトヲ問ハス況ク之ニ包含スルモノト解釋スルヲ相當ナルヲ知リ得シト

○著作權ト偽作

著作權法第三七條發行又ハ興行シタル著作物ヲ登錄シタル著作權者ハ偽作者ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルモノト云同法第一五條第二項第二九條而シテ著作權ハ何時發生スルカ隨テ登錄セサル著作物ヲ偽作シタル

者ハ判罰ニ處セラレハ否ヤ又舊版權法ニ依リ登錄ヲ受ケサリシモノハ著作
 權法ノ保護ヲ享クルコト能ハサルカ(同法第四七條)版權法第一條第三條參照此
 問題ニ付キ大審院ハ判決シテ曰ク著作權法ニ所謂著作權ハ版權法ニ規定シタ
 ル版權ト全ク同シカラス版權法ニ依レハ版權ハ之ヲ登錄スルニ非サレハ存在
 セスト雖モ著作權ハ之ト異ナリ著作權カ其權利ヲ登錄スルト否トハ唯偽作者
 ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スルヲ得ルト否トノ差アルニ止マリ其權利ハ登錄ノ
 有無ニ拘ハラズ常ニ之ヲ享有スルモノトス而シテ著作權法附則第四十七條ニ
 依レハ本法施行前ニ著作權ノ消滅セサル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保
 護ヲ享有ストアリテ本法施行以前ノ著作物ニ付テモ亦著作權ノ存在ヲ認メ之
 ヲ保護スルノ趣旨タルコト明カナレハ其著作權カ版權ノ登錄ヲ爲ササリシカ
 爲メ著作權法ノ保護ヲ與ヘタル理由アルハカラスト(大審院明治三十六年(一)第
 十五日第三十次部宣告)而テ又其似式ニ同ク著作權ノ保護ヲ與ヘタル理由
 爲メ其似式ニ同ク著作權ノ保護ヲ與ヘタル理由アルハカラスト(大審院明治三十六年(一)第
 十五日第三十次部宣告)而テ又其似式ニ同ク著作權ノ保護ヲ與ヘタル理由アルハカラスト

● 學生募集

○專門部 正科生、別科生共缺員アリ臨時入學ヲ許ス

○高等研究科 十一月四日新學年授業開始ス入學志望者ハ至急申出ツヘシ

○聽講生 聽講生ハ隨時入學ヲ許ス

○特別試驗及ヒ編入試驗 各三年級 十一月十一日ヨリ施行ス、志願者ハ前
日マテニ申出ツヘシ

○校外生

三十七年度講義錄ハ之ヲ三學年ニ分チ各學年共十月ヨリ毎月三回發行滿一箇年ヲ以テ完結ス
 月謝金ハ各學年共金五十錢但官公衛在職者(證明書ヲ要ス)及ヒ校友ノ紹介アル者ハ金四十五錢トス
 總テ入學金ヲ要セス入學志願者ハ至急申込ムヘシ

十一月 司法省指定 文部省認定 私立 法政大學

法學志林

一部定價金十二錢郵税一錢
二部定價金二十錢郵税一錢
三部定價金三十錢郵税一錢
四部定價金四十錢郵税一錢
五部定價金五十錢郵税一錢
六部定價金六十錢郵税一錢
七部定價金七十錢郵税一錢
八部定價金八十錢郵税一錢
九部定價金九十錢郵税一錢
十部定價金一百錢郵税一錢

第四十九號

(十月十五日發行)

志林

○最近判例批評(其十三) 法學博士 梅澤次郎
○日本ニ於ケル過去及現在ノ領事裁判 法學博士 中村進午
○滿洲問題ノ經濟觀 法學博士 金井延
○民法雜說 法學士 荒井賢太郎

纂論

(取引所ノ權) 海山 獵夫

解疑

○委託記實人ノ所有ニ關スル家産ノ存スル土地ヲ
賣却シタル場合ニ於テ買主ヨリ土地所有主ナリシ
賣主ニ對スル引渡請求權ノ範圍 法學士 塚田達二郎
○訴訟物ノ範圍 法學士 遠藤忠次
○申立ト申請トノ差異 法學士 松本蒸治
○異議權會議ノ合併 校友 一柳貞吉

寄書

○鐵道ノ性質ニ就テ

其他判例、雜報、記事等

私立法政大學一覽(法學志林第四十八號)

○本校ノ略(ハ本誌ニ限リ實收金五錢ニ減價スヘシ)
○本校ノ略(ハ本誌ニ限リ實收金五錢ニ減價スヘシ)
○本校ノ略(ハ本誌ニ限リ實收金五錢ニ減價スヘシ)
○本校ノ略(ハ本誌ニ限リ實收金五錢ニ減價スヘシ)
○本校ノ略(ハ本誌ニ限リ實收金五錢ニ減價スヘシ)
○本校ノ略(ハ本誌ニ限リ實收金五錢ニ減價スヘシ)
○本校ノ略(ハ本誌ニ限リ實收金五錢ニ減價スヘシ)
○本校ノ略(ハ本誌ニ限リ實收金五錢ニ減價スヘシ)
○本校ノ略(ハ本誌ニ限リ實收金五錢ニ減價スヘシ)
○本校ノ略(ハ本誌ニ限リ實收金五錢ニ減價スヘシ)

發行所

司法部指定
文部省認定
私立法政大學

明治三十六年十月卅一日印刷

明治三十六年十一月一日發行

(定價金貳拾錢)

東京市牛込區牛込北町十番地

編輯者 萩原敬之

東京市牛込區矢來町三番地

印刷者 小宮山信好

東京市芝區西ノ久保町第十一番地

印刷所 金子活版所

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

發行所

和佛法律學校

(電話番町百七十四番)

明治二十二年十二月九日內務省許可

(明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可 毎月十三圓一日五日八日)
十口十一日十五口十六口廿三日廿五口廿六口廿九口三十口發行